# 小形無停電電源装置

## 取扱説明書

## Little star
## Ｅ３プラスタイプ

| 形 式 | | 出力容量 | |
|---|---|---|---|
| ECE3P-U20050N | / | 5kVA | (4,250W) |
| ECE3P-U20075N | / | 7.5kVA | (6,375W) |

単相２線 200V 入力
単相２線 100V 出力
50/60Hz（共用）

株式会社 東芝

**ご 注 意**

１．お使いになる前に、本書の内容を良く理解してから正しくお使いください。
読み終わったら、いつもお手元に保管してください。
２．本書の内容は、予告なしに変更することがあります。
３．本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
４．本書の内容については万全を期していますが、万が一不可解な点や、誤り、
お気付きの点がありましたら、販売店へご一報くださるようお願いいたします。
５．セットメーカ様へのお願い
本書は、実際に小形無停電電源装置をご使用になる方のお手元に必ず届くようお取り計らいください。

# 1. はじめに

この度は弊社小形無停電電源装置(UPS: Uninterruptible Power System)E3 プラスタイプをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本装置は、商用電力からの瞬時停電、瞬時電圧降下、電圧変動、周波数変動等に対し、安定した電圧、周波数の電力を負荷機器に供給します。

取扱説明書をよくお読みになり、正しくご使用ください。また、この取扱説明書を装置近くに保管して、運転操作担当者が必要な時、ただちに利用できるようにご配慮ください。

## E3 プラスタイプの特長

E3 プラスタイプ UPS には以下のような特長があります。

### (1) 豊富なモニタ機能

UPS の状態表示に LCD を採用し、出力電流その他の情報を表示します。また故障時には、自己診断を行った上で原因を表示します。

### (2) 外部インタフェースを標準装備

- リモート運転／停止信号入力インタフェース…離れた場所から UPS 運転を ON/OFF します。
- 外部接点インタフェース……UPS の運転状態を細かく監視します。
- RS-232C インタフェース……コンピュータから UPS を細かく監視／制御できます。
- (オプション)SNMP カード……ネットワーク経由で UPS を監視/制御できます。

### (3) オートリトランスファ機能と余裕ある電流波高率

負荷機器の電源投入時の一時的な過大電流（運転時の 2～10 倍）から UPS 装置を保護するためオートリトランスファ機能を有しています。これは UPS の負荷電流が許容値を超えるような場合、負荷への電力供給をバイパス回路経由に一時的に切り換え、必要な初期電流を流した後、再びインバータ出力に戻す動作を言います。このため負荷機器の容量を減らすことなく、UPS 装置を使用できます。

瞬時電流制限機能を有しているため、高い波高率（クレストファクタ＝2.5）に対しても、安心してご使用できます。

### (4) 静音運転

静音運転のため、オフィスでも使用できます。

### (5) メンテナンスが容易

本装置は小型制御弁式鉛蓄電池（シール形鉛蓄電池）を使用しているため、補液・電解液比重点検など面倒なバッテリ点検作業が不要です。約 5 年毎（UPS の周囲温度 25℃の場合）の簡単なバッテリ交換で済みます。

# 2. 安全上のご注意

**装置本体および取扱説明書には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。**
**次の内容（表示・図記号）を良く理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。**

## 2.1 表示・図記号の説明

［表示の説明］

| 表　示 | 表示の意味 |
|---|---|
| ⚠危険 | “誤った取り扱いをすると人が死亡する、または重傷を負う可能性のあること”を示します。 |
| ⚠注意 | “誤った取り扱いをすると人が傷害(*1)を負う可能性、または物的損害(*2)のみが発生する可能性のあること”を示します。 |

*1：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさす。
*2：物的損害とは、財産・資材の破損にかかわる拡大損害をさす。
なお、注意に記載した事項でも、状況によっては重大な障害及び損害に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので必ず守って下さい。

［図記号の説明］

| 図記号 | 図記号の意味 |
|---|---|
| 🛇 | 禁止（してはいけないこと）を示します。<br>具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。 |
| ❗ | 強制（必ずすること）を示します。<br>具体的な強制内容は、図記号の近くに絵や文章で指示します。 |

## 2.2 用途限定について

| 禁　止 | ■ 人の生命に関わる装置など (*1) には、絶対に使用しないこと<br>*1：人の生命に関わる装置とは、以下のものをいいます。<br>・手術室用機器<br>・生命維持装置（人工透析器、保育器など）<br>・有毒ガスなどの排ガス、排煙装置<br>・消防法、建築基準法などの各種法令により設置が義務づけられている装置<br>・上記に準ずる装置 |
|---|---|

| 注　意 | ■ 人の安全に関与し、公共の機能維持に重大な影響を及ぼす装置など (*2) については、システムの運用、維持、管理に関して特別な配慮 (*3) をすること<br>*2：人の安全に関与し、公共の機能維持に重大な影響を及ぼす装置などとは、以下のものをいいます。<br>・航空、鉄道、道路、海運など交通管制、または制御を行う装置<br>・原子力発電所などの制御などを行う装置・通信制御装置<br>・上記に準ずる装置<br>*3：特別な配慮とは、システム設計者と十分な協議を行い、システムを多重系にする、非常用発電設備を設置するなど、無停電電源装置の故障時におけるバックアップシステムを事前に構築することをいいます。 |
|---|---|

## 2.3 設置・運転環境について

| | |
|---|---|
| ⚠危険 | ■ 引火性ガス・爆発性ガスが存在する場所には設置しないこと。<br>遮断器のスパークなどにより，爆発・火災の原因となります。<br><br>■ 屋外に設置しないこと。<br>雨水などが高電圧部にかかり，漏電による火災・感電の原因となります。 |
| ⚠注意 | ■ 暑い場所・寒い場所・湿度の高い場所および温度・が急激に変化する場所には設置しないこと。<br>部品の性能変化・結露などにより，装置性能の低下や故障の原因となります。<br>もしそのままで推奨設置環境を満足できないときは，空調設備が必要となります。<br>推奨設置環境：周囲温度　０～４０℃<br>相対湿度　３０～９０％以下（結露なきこと）<br><br>■ 振動（＊１）または衝撃（＊２）を受ける場所には設置しないこと。<br>振動または衝撃を受ける場所に設置すると，部品の性能変化により，性能の低下や故障の原因となります。<br>＊１・＊２：詳細については 4 ページをご参照ください。<br><br>■ 塩分を含む空気・腐食性ガス（＊）および水蒸気・油蒸気にさらされる場所には設置しないこと。<br>これらの存在する場所に設置すると，遮断器・スイッチの接触不良をおこし，性能の低下や故障の原因となります。<br>＊：詳細については 4 ページを参照ください。<br><br>■ 鉄粉および有機材のシリコンなどを含む粉塵が多い場所には設置しないこと。<br>絶縁不良または遮断器・スイッチの接触不良をおこし、性能の低下や故障の原因となります。<br><br>■ 標高が 1000mを越える高地には設置しないこと。<br>絶縁耐圧が低下し，性能の低下や故障の原因になります。<br><br>■ 入力側に大きな電圧変動（±１０％以上）・サージ（6kV ピーク以上）があるときには改善すること。<br>改善しないと故障の原因となります。なお，改善方法については弊社へご相談ください。 |

### 2.3.1　設置環境について

■ＵＰＳおよび関連機器の設置・運転環境は表 2.1 に示す環境基準をお守りください。
この基準を守らないと、装置の絶縁劣化などによる寿命低下・故障の原因となります。
設置前に設置場所の環境測定と評価を実施され、万一、基準値を満足しない場合、ＵＰＳ設置運転前に必要な対策を実施されることを推奨します。

| お願い | ■　ＵＰＳ室清掃の際は塵が舞い上がらないよう電気掃除機で清掃してください。<br>■　電気室床面等にシリコン系ワックスは使用しないでください。 |
|---|---|

表 2.1　　ＵＰＳ設置・運転環境基準

| No. | 項目 | 環境基準 |
|---|---|---|
| 1 | 設置場所 | 屋　　内 |
| 2 | 周囲温度 | 最低温度：０℃　、　最高温度：４０℃<br>２４時間の平均値は　5～35℃の範囲とする。 |
| 3 | 相対湿度 | 30～90%。温度変化による結露がないこと。 |
| 4 | 高　　度 | 海抜　1000m以下とする。 |
| 5 | 気　　圧 | 860～1060hPa の範囲とする。 |
| 6 | 振動・衝撃 | 振動数は 10Hz 以下、または 20Hz 以上。<br>振動加速度は、振動数 10Hz 以下の場合、0.5G 以下<br>〃　　振動数 20Hz 超過 50Hz 以下の場合、0.5G 以下<br>〃　　振動数 50Hz 超過 100Hz 以下の場合、全振幅 0.1mm 以下 |
| 7 | 粉　　塵 | 設置室内の粉塵は大気粉塵程度とし、特に鉄粉、油脂、有機材シリコン等を含まないこと。 |
| 8 | 引火性ガス | 引火性ガス・爆発性ガスは存在しないこと。 |
| 9 | 腐食性因子<br>注）IEC60654-4 (1987)ｸﾗｽ 1 を参考として規定。 | 各腐食性因子は、下記濃度以内であること。 |

| 腐食性因子 | 平均値［PPM］ | 最大値［PPM］ |
|---|---|---|
| 硫化水素　($H_2S$) | ＜　0.003 | ＜　0.01 |
| 亜硫酸ガス　($SO_2$) | ＜　0.01 | ＜　0.03 |
| 塩素ガス　($Cl_2$)<br>（相対湿度　＞　５０%） | ＜　0.0005 | ＜　0.001 |
| 塩素ガス　($Cl_2$)<br>（相対湿度　＜　５０%） | ＜　0.002 | ＜　0.01 |
| フッ化水素　(HF) | ＜　0.001 | ＜　0.005 |
| アンモニアガス　($NH_3$) | ＜　1 | ＜　5 |
| 窒素酸化物　($NO_X$) | ＜　0.05 | ＜　0.1 |
| オゾン　($O_3$) | ＜　0.002 | ＜　0.005 |

（注１）周囲温度が高くなるとバッテリ、ファン、電解コンデンサなど
ＵＰＳで使用している電気部品の寿命が短くなります。
バッテリの場合の周囲温度に対する推奨交換周期については
P65 ページ 13.3　部品交換サービスをご参照ください。

## 2.4 火災予防条例について

■本装置の他にも無停電電源装置を設置するなどで、バッテリ容量の合計が 4800Ah・セル以上となるときは、専用不燃区画に設置すること（火災予防条例準則第 11 条、13 条）

くわしい内容を所轄消防署にお問い合わせの上、「設置届書」をご提出ください。

〈装置の標準バッテリ容量〉

| 形　式 | バッテリ容量(*4) |
|---|---|
| ECE3P-U20050N | 756 Ah・セル |
| ECE3P-U20075N | 1,008 Ah・セル |

*4：Ah・セルは、バッテリ容量を示す単位です。
例えば、1,008Ah・セルとは、7.0Ah-12V のバッテリを 24 個使用したものを示します。
1,008= 7.0 × 6 × 24 (Ah・セル)

## 2.5 免責事項について

■装置・負荷機器・ソフトの異常・故障に対する損害、その他二次的、三次的な波及損害を含むすべての損害の補償には応じかねます。

## 2.6 廃棄について

■製品を破棄する場合は，特別産業廃棄物であるため，一般ごみと同様の廃却はできません。
専門の廃棄物処理業者(*)に依頼すること。

■バッテリも，特別産業廃棄物であるため，一般ごみと同様の廃却はできません。
廃却については，お買い上げの販売店にご連絡ください。
産業廃棄物の収集・運搬及び処分は認可を受けていないものが行うと、法律により罰せられます。
（「廃棄物の処理ならびに清掃に関する法律」）

(*)専門の廃棄物処理業者とは、「産業廃棄物収集運搬業者」、「産業廃棄物処分業者」をいう。

### 2.6.1 バッテリ（鉛蓄電池）のリサイクルについて

■この製品には、バッテリ（鉛蓄電池）を使用しております。バッテリ（鉛蓄電池）はリサイクル可能な貴重な資源です。バッテリ（鉛蓄電池）の交換およびご使用済み製品の破棄に際しては、リサイクルにご協力ください。

## 2.7 取り扱い全般に関して

### ⚠ 危険

**■改造・分解・修理・部品交換・廃棄しないこと**

火災・感電の原因となります。
修理･部品交換は、販売店にご依頼ください。
廃棄は専門の廃棄物処理業者にご依頼ください。

禁止

**■装置と入出力端子台のカバーをはずさないこと**

内部は電圧の高い部分があり、感電の原因となります。
・異物の混入により、発火の原因となることがあります。

禁止

**■隙間（排気吹出し口など）から、金属類、燃えやすい物、指などを差し込んだり、内部に入れないこと**

火災・感電の原因となります。
また，回転しているファンでけがをする恐れがあります。

禁止

**■上に腰かけたり、乗ったり、踏み台にしたり、寄りかからないこと**

装置が転倒し、けがの原因となります。

禁止

**■据付後、キャスターに取付けたストッパーをはずさないこと**

装置が動いたり、転倒し、けがの原因となります。

禁止

**■配線ケーブルを取り扱うときは、次の点を守ること**

・引っ張ったり、無理に曲げたり、傷つけない
・物を載せたり、加熱しない

守らないと、ケーブルが破損し、火災・感電の原因となります。

禁止

**■装置の上や近くに花瓶など、液体の入った容器を置かないこと**

液体がこぼれて内部に入ると、火災・感電の原因となります。

禁止

**■万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常があるときは、すぐに運転を停止し、入力ブレーカを「OFF」にすること**

そのまま使用すると、火災の原因となります。
操作後は、販売店に修理をご依頼ください。

強制

## 2.7　取り扱い全般に関して　（続き）

| ⚠ 注意 | |
|---|---|
| **■ぬれた手で操作したり、ぬれた布などでふかないこと**<br>感電の原因となります。<br>禁　止 | **■排気吹き出し口をふさがないこと**<br>内部に熱がこもり、火災の原因となります。<br>禁　止 |
| **■初めて運転するときや停電バックアップ運転後は、負荷機器を使用する前に 24 時間以上充電（入力ブレーカを「ON」）すること**<br>充電しないと、バッテリバックアップ運転時間が短くなり、処理中のデータを破壊する原因となります。<br>強　制 | **■3 ヵ月以上停止させるときは、3 ヵ月に 1 度は 24 時間以上充電（入力ブレーカを「ON」）すること**<br>充電しないとバッテリが劣化し、バッテリバックアップ運転時間が短くなり、処理中のデータを破壊する原因となります。<br>強　制 |
| **■入力ブレーカを「OFF」にする前に、負荷機器を停止させること（停止方法は負荷機器の取扱説明書参照）**<br>負荷機器を停止させずに入力ブレーカを「OFF」にすると、処理中のデータを破壊する原因となります。<br>強　制 | **■警報ブザーが鳴り、UPS 運転／故障ランプが赤色に点滅したときは、60 ページの「トラブルシューティング」にしたがうこと**<br>したがわずにそのまま運転を続けると、処理中のデータを破壊する原因となります。<br>強　制 |
| **■装置周辺は換気すること**<br>換気しないと内部に熱がこもり火災の原因となります。<br>強　制 | **■絶縁耐圧試験や絶縁抵抗試験は実施しないこと**<br>発煙、火災、故障の原因となります。<br>禁　止 |
| **■日常点検すること（64 ページ参照）**<br>日常点検しないと異常・故障を発見できずに、処理中のデータを破壊する原因となります。<br>強　制 | **■腐食性因子を含む環境では使用しないこと**<br>UPS 内部の部品腐食の原因となり、装置の寿命低下・故障の要因となります。（4 ページ参照）<br>禁　止 |

## 2.8　バッテリの注意事項

### ⚠ 注意

■バッテリは交換時期前に販売店に交換を依頼すること

＜UPS 周囲温度とバッテリの推奨交換周期＞
交換時期を過ぎたバッテリをそのまま使用すると電槽亀裂、バッテリの液漏れから異臭･発煙･発火
に至る可能性があります。
バッテリの推奨交換周期は周囲温度により異なりますので、下記年表以内を目処に取替を計画ください。また、充放電が頻繁に行われると更に寿命が短くなります。

＜バッテリ交換周期（目安）＞

| 周囲温度 | 交換周期（目安） |
|---|---|
| 25℃ | 5 年 |
| 30℃ | 3 年 6 カ月 |
| 40℃ | 1 年 9 カ月 |

＜寿命によるバックアップ能力の低下＞
バッテリは時間の経過とともに劣化し、バックアップ能力が低下するので、交換が遅れるとバッテリバックアップ運転時間が短くなり、
接続機器へ電力を供給することができず、
処理中のデータを破壊する原因となります。
寿命期のバッテリ保持時間は、バッテリ初期状態と比較して約 50%まで低下します。

強　制

■本装置専用以外のバッテリは接続しないでください。

本装置専用以外のバッテリを接続すると、
装置及びバッテリを破損させる恐れがあります。

禁　止

### ⚠ 危険

■装置周辺での火気の使用を禁止します。

バッテリの爆発，破損により，けが，火災の恐れがあります。

禁　止

## 2.9 運搬・据付・配線に関して

| ⚠ 危険 | |
|---|---|
| **■2 人以上で運ぶこと**<br>1 人で運ぶと、けがの原因となります。<br>（7.5kVA の場合で標準装置質量は約 175 kg）<br>強　制 | **■電源配線工事は電気工事士の資格者が行うこと**<br>資格を持っていないかたが行うと、<br>火災・感電の原因となります。<br>配線工事は販売店にご依頼されることを<br>おすすめします。<br>強　制 |
| **■ぐらつく場所、傾いた場所、台の上などに置かないこと**<br>装置が転倒・落下し、けがの原因となります。<br>禁　止 | **■水などの液体のかかる場所に置かないこと**<br>火災・感電の原因となります。<br>禁　止 |
| **■アースを確実に取り付けること（32 ページ参照）**<br>アースを確実に取り付けないと、故障・漏電のときに感電の原因となります。<br>アース線を指定場所に確実に接続して下さい。（D 種接地以上）<br>アースを規定の接地種別で接続しない場合、<br>感電、装置誤動作の原因となります。<br>強　制 | **■据付後、キャスターを添付のストッパーで固定すること**<br>固定しないと、装置が動いたり、転倒し、けがの原因となります。<br>強　制 |
| **■コンクリート製以外の床に置くときは、販売店に相談すること**<br>コンクリート製以外の床にそのまま置くと、装置の重さで床がへこみ、装置が転倒し、けがの原因となります。<br>強　制 | **■入出力端子台のカバーをはずす前に、運転を停止し、入力ブレーカを「OFF」、配電盤の UPS 電源用ブレーカを「OFF」にすること**<br>これらの操作をせずに、入出力端子台のカバーをはずすと、感電の原因となります。<br>強　制 |

## 2.9 運搬･据付･配線に関して（続き）

<table>
<tr><td colspan="2">⚠ 注意</td></tr>
<tr><td colspan="2">

**■壁などから 10cm 以上離して置くこと**

離して置かないと内側に熱がこもり、火災の原因となります。

以下の点に注意して設置下さい。

- 両側面は壁などから 10cm 以上離すこと
- 少なくともどちらか一方の側面は壁などから十分（装置の幅以上）離すこと
- 背面は壁などから 20cm 以上離すこと
- 上部の空間を塞がないこと
- 狭い空間や机の下などに設置しないこと

強　制
</td></tr>
<tr><td colspan="2">

**■半波整流負荷には接続しないこと（57 ページ）**

故障の原因となったり、正常に動作できなくなる恐れがあります。

禁　止
</td></tr>
</table>

## 2.10 保守・点検について

<table>
<tr><td colspan="2">⚠ 注意</td></tr>
<tr><td>

**■機能保持のため定期点検が必要です。**

・保守部品は定期的に交換して下さい。<br>（P65 ページ 13.3 部品交換サービスを<br>御参照下さい）<br>・交換時期を過ぎたバッテリは、漏液、発火による火災の原因になることがあります。

強　制
</td><td>

**■弊社指定のサービス員以外は，定期点検，部品交換，修理をしないこと。**

感電、けが、やけど、発煙、発火などの原因となります。

強　制
</td></tr>
</table>

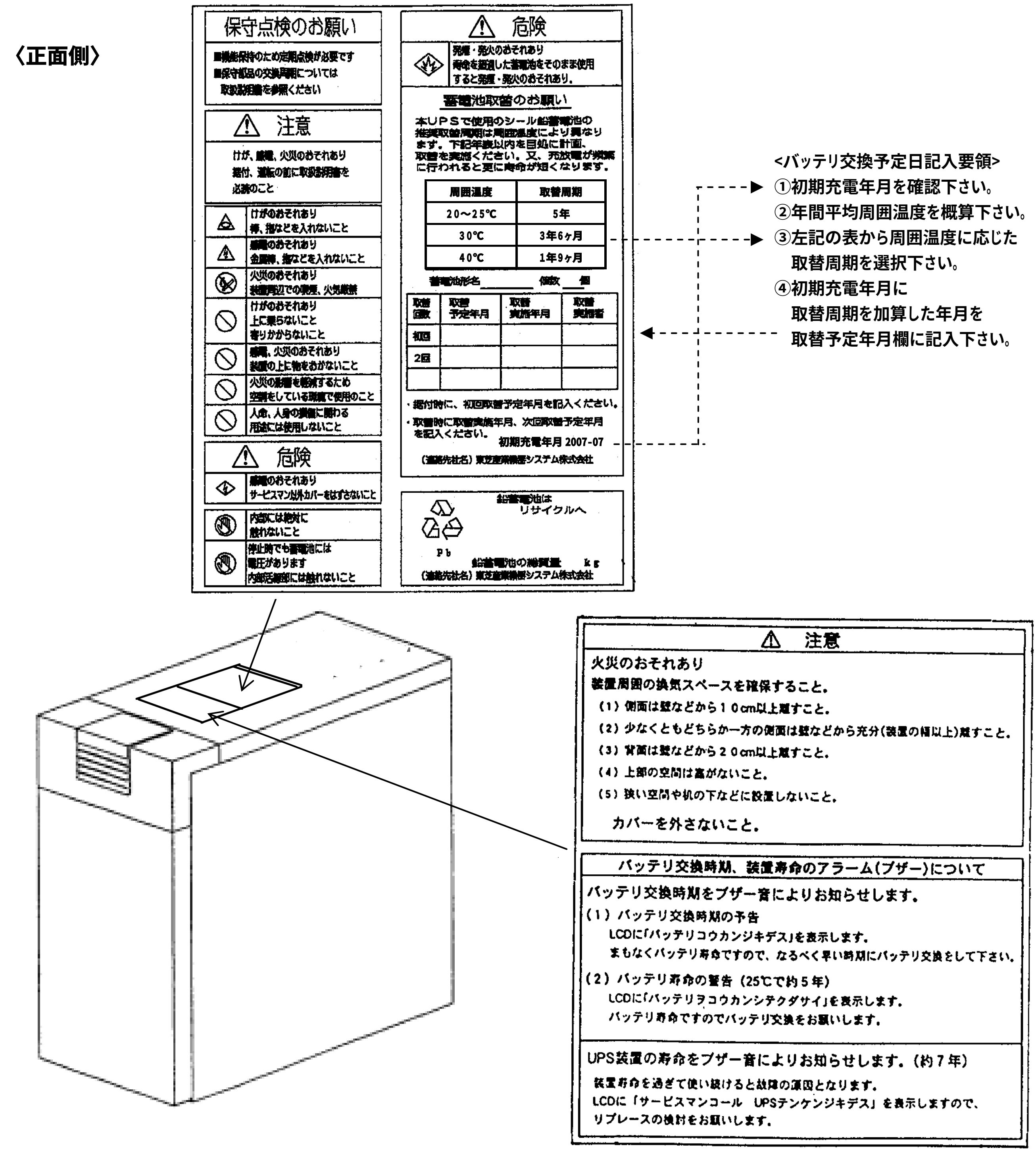
## 2.11 安全ラベルの確認について

(1)本装置に取り付けてある全ての安全ラベルは、次に示してあります。開梱後この安全ラベルを確認し、紛失・誤りなどがありましたら販売店へご連絡ください。

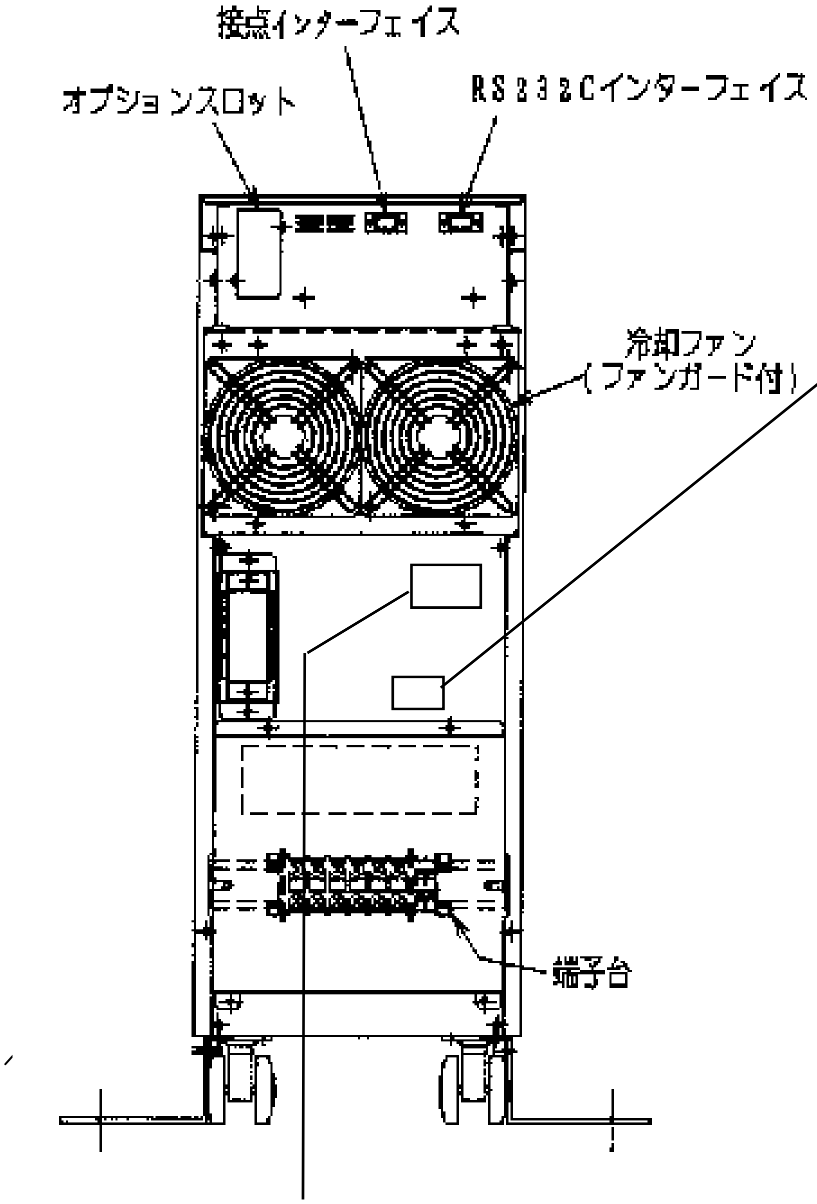
(2)安全のため、全ての安全ラベルを読み、よく理解してください。

(3)安全ラベルは見やすい状態に保ち、汚損、取り外し、カバーによる覆いなどをしないでください。

(4)下記のバッテリ交換予定日記入要領に従って、周囲温度に応じてバッテリ交換予定日を算定し、下記ラベル中に記入ください。



〈背面側〉




**⚠ 危　険**

感電のおそれあり
・カバーを外さないこと
・アース線を接続すること

（定格銘板：7.5kVA UPS の例）

**UPS**

| | |
|---|---|
| TYPE-FORM | ECE3P-U20075N |
| INPUT | 1PH-2W AC200V-50/60Hz |
| OUTPUT | 1PH-2W AC100V-50/60Hz |
| CAPACITY | 7.5kVA(6,375W) |
| MASS | 175kg |
| LOT No. | 07G 3H04454 |
| SERIALNo. | 07245301 |

TOSHIBA MITSUBISHI-ELECTRIC INDUSTRIAL SYSTEMS CORPORATION
MADE IN JAPAN

# 3. 目　次

## 3.1 目　次


1. はじめに ........ 1

2. 安全上のご注意 ........ 2

2.1 表示･図記号の説明 ........ 2

[表示の説明] ........ 2

[図記号の説明] ........ 2

2.2 用途限定について ........ 2

2.3 設置・運転環境について ........ 3

2.4 火災予防条例について ........ 5

2.5 免責事項について ........ 5

2.6 廃棄について ........ 5

2.7 取り扱い全般に関して ........ 6

2.8 バッテリの注意事項 ........ 8

2.9 運搬･据付・配線に関して ........ 9

2.10 保守・点検について ........ 10

2.11 安全ラベルの確認について ........ 11

3. 目　次 ........ 13

3.1 目次 ........ 13

3.2 本書の読み方 ........ 17

3.3 本書で使用する用語 ........ 18

4. UPS の搬入と設置 ........ 19

4.1 UPS を搬入する前に ........ 19

(1) 周辺機器との配置関係の検討 ........ 19

(a) UPS と接続機器の距離 ........ 19

(2) 設置場所を選定する ........ 19

(a) 供給電源を確認する ........ 19

(b) 耐床荷重をチェックする ........ 19

(c) 保守点検スペースを確保する ........ 20

(d) 適切な換気スペースを確保する ........ 20

(e) 適切な設置環境を選ぶ ........ 20

4.2 バッテリについて 21
4.3 電子計算機電源設備の耐震措置（転倒防止）について 22
4.4 搬入経路を確認する 22
4.5 UPS の開梱と設置 22
(1) 開梱前の点検 22
(2) 設置 22
4.6 添付品の確認 23
(1) 添付品の確認 23

5. UPS 各部の名称と機能 24

6. 配線接続工事 25

6.1 接続の概要 25
6.2 入出力 26
(1) 電源を確認する 26
(2) 配電盤のブレーカ定格を確認する 26
(3) 端子台の接続 27
(4) 配線長とケーブルサイズを決める 28
(5) 配線電圧降下計算法 28
(6) 〃 〃 の計算例 29
(7) 〃 〃 の不具合事例 29
(8) 不具合事例の対策（その 1） 30
(9) 〃 〃 （その 2） 31
6.3 接地 32
(1) 接地の目的 32
(2) UPS の接地 32
(3) 電子計算機システム安全対策基準について 33

7. 外部インタフェース 34

7.1 外部インタフェースの種類 34
(1) リモート運転／停止制御信号入力のインタフェース 34
(2) 外部接点インタフェース 35
(3) RS-232C インタフェース 37
7.2 外部インタフェースコネクタの組立 39
(1) 必要部品の確認 39
(2) コネクタ組立 40

8. 使用前の点検と確認 …… 41

8.1 接続完了のチェック …… 41

8.2 電源の確認 …… 42

9. UPS の運転操作方法 …… 43

9.1 手動操作にて運転･停止させる場合 …… 44

(1) UPS を停止させる方法 …… 44

(2) UPS を運転する方法 …… 44

9.2 スケジュール運転 …… 45

9.3 UPS の電源を遮断する場合 …… 45

9.4 長期間運転しない場合 …… 46

9.5 バッテリのフル充電 …… 46

10.運転中の動作と表示 …… 47

10.1 操作部詳細 …… 47

10.2 基本表示画面 …… 49

10.3 個別データ表示画面 …… 50

10.4 内部データ設定画面 …… 51

10.5 警告／故障発生時等の表示 …… 53

(1) 警告発生時の LCD 表示内容 …… 53

(2) 状態変化発生時の LCD 表示内容 …… 54

(3) 故障発生時の LCD 表示内容 …… 54

11.動作確認テスト …… 56

11.1 バッテリバックアップ機能テスト（負荷機器なし） …… 56

11.2 負荷機器の適性容量確認テスト …… 57

11.3 バッテリバックアップ機能テスト（負荷機器あり） …… 59

12.トラブルシューティング …… 60

12.1 トラブル発生と対応 …… 61

12.2 サービスマンに連絡する前に …… 61

12.3 トラブル時の LED と画面表示 …… 62

(1) 警告 LED（黄）が点滅している …… 62

(2) 警告 LED（黄）が点灯している …… 62

(3) UPS 入力電源が停電でないのにバックアップモードとなる 63
(4) 故障 LED（赤）が点灯している 63
12.4 外部インタフェースからの故障信号 63
(1) 外部接点インタフェースからの場合 63
(2) RS-232C インタフェースからの場合 63

13.保守点検とアフターサービス 64
13.1 日常点検 64
13.2 定期点検サービス 65
13.3 部品交換サービス 65
13.4 廃棄 67
13.5 バッテリ寿命と製品寿命アラーム 67

14.保証 68
14.1 保証書の入手と保管 68
14.2 保証の制限条件 68

15.Ｅ３プラスタイプＵＰＳの仕様 69
15.1 標準仕様 69
15.2 5kVA の外形詳細図 70
15.3 7.5kVA の外形詳細図 71

付　録

UPS 固定パネル（標準仕様） 72
Ｅ３プラスタイプ形式説明 73

## 3.2 本書の読み方

○設置と配線

本装置の設置、接続作業は「4.UPS の搬入と設置」「5.UPS 各部の名称と機能」及び「6.配線接続工事」を読んでから行ってください。

○外部インタフェース

本装置の運転状態は離れた場所からも監視できます。外部インタフェースとの接続方法は、「7.外部インタフェース」をお読みください。

○初めて起動する前に

設置直後、UPS を使用する前に「8.使用前の点検と確認」、「9.UPS の運転操作方法」、「10.運転中の動作と表示」及び「11.動作確認テスト」をお読みになり、確認テストをしてください。

○日常の運転・操作

日常の運転にあたっては「5.UPS 各部の名称と機能」、「9.UPS の運転操作方法」及び「10.運転中の表示と動作」を、お読みになってご使用ください。

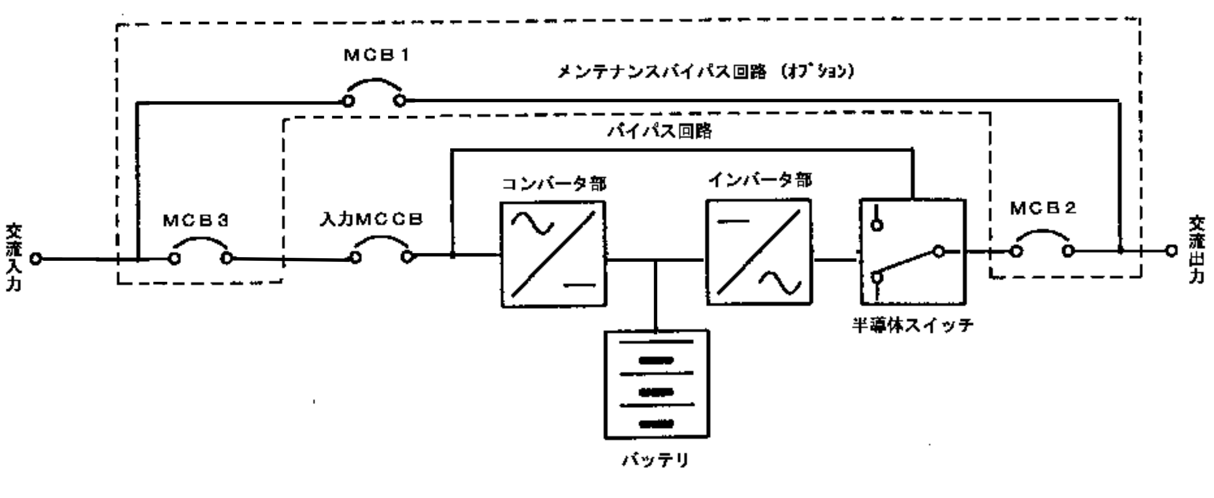
○故障と日常点検

トラブルが発生したときや動作がおかしいと思ったときは「12.トラブルシューティング」を、日常の点検には「13.保守点検とアフターサービス」を、ご覧ください。

## 3.3 本書で使用する用語

| | | |
|---|---|---|
| UPS | : | Uninterruptible Power System（無停電電源装置）の略。 |
| LED | : | Light Emitting Diode（発光ダイオード）の略。 |
| LCD | : | Liquid Crystal Display (液晶表示器)の略 |
| CRT | : | Cathode Ray Tube（ブラウン管）の略。 |
| | | |
| 負荷 | : | UPS から電力を受ける機器を指します。 |
| 過負荷 | : | UPS から受ける負荷の総電力量の合計が<br>UPS の定格容量を越えている状態です。 |
| 入力 OV | : | 入力過電圧 |
| 入力 UV | : | 入力不足電圧 |
| インタフェース | : | UPS が外部との信号をやりとりできる手段です。 |
| 電流波高率<br>(クレストファクタ) | : | 電流の実効値に対する電流ピーク値の比を示します。<br>（例：正弦波の場合・1.414(＝√2)）。 |
| バイパス回路 | : | UPS にトラブルが発生した時、あるいは負荷電流が定格出力電流を<br>越えた時、入力電源電力を直接負荷機器に供給するための回路です。 |
| コンバータ部 | : | 交流入力を直流に変換する回路です。 |
| インバータ部 | : | UPS 内で直流に変換された電圧を交流電圧に変換する回路です。 |
| 半導体スイッチ | : | インバータ出力とバイパス回路出力を切換えるためのスイッチです。 |
| バッテリ | : | 停電の際に交流入力にかわって電力を供給します。 |

＊ ﾒﾝﾃﾅﾝｽﾊﾞｲﾊﾟｽ回路はｵﾌﾟｼｮﾝです。

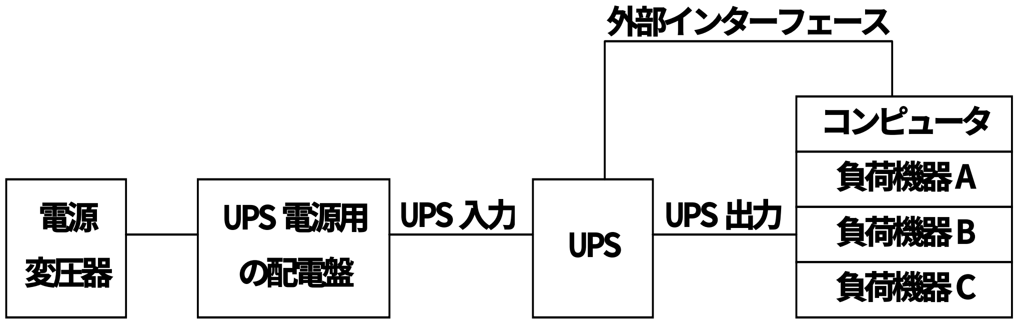


# 4. UPS の搬入と設置

## 4.1 UPS を搬入する前に

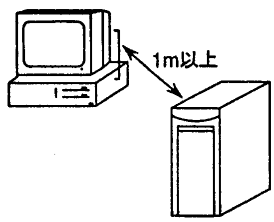
### (1) 周辺機器との配置関係の検討

UPS との接続は次の通りです。搬入（再輸送）に先立ち、以下の諸点をご検討ください。




(a) UPS と接続機器の距離

お願い：UPS は運転中、磁気を発生します。ディスク装置や CRT モニタから 1m 以上離れた場所に UPS を設置してください。




### (2) 設置場所を選定する

(a) 供給電源を確認する

UPS は交流電源が必要です(200VAC、50/60Hz、25A～37.5A)。

UPS の設置場所にこの電源が供給できることを確認してください。

(b) 耐床荷重をチェックする

| ⚠危険 | ■コンクリート製以外の床に置くときは、販売店に相談すること<br>コンクリート製以外の床にそのまま置くと、装置の重さで床がへこみ、装置が転倒し、けがの原因となります。 |
|---|---|

事務用ビルの耐床荷重は約 200 kg／㎡です。UPS、負荷機器、備器の質量が 200 kg／㎡を超える場合、事前に床を補強する必要があります。

$$\frac{\text{質量}}{\text{据付床面積}} < 200\text{kg/m}^2$$

(c) 保守点検スペースを確保する

サービスマンは UPS 両側面のカバーを外し保守点検を行うため、保守点検時は両側面に余裕スペースが必要です。UPS を移動しにくい場所に設置する場合、あらかじめ両側面及び、前面に 80 ㎝以上の保守点検スペースを確保してください。

万一上記スペースを確保できない場合には保守点検時に UPS を手前側に引き出せるよう、設置･配線上の工夫をお願いします。

(d) 適切な換気スペースを確保する

| ⚠注意 | ■壁などから十分離し吸気口および排気口を塞がないようにすること<br>内部に熱がこもり、火災の原因となります。 |
|---|---|

排気ファンによる冷却を妨げないよう、UPS 背面には排気用のスペースが必要です。

狭い空間や机の下などに設置し内部に熱がこもると火災の原因となるばかりでなく、バッテリ劣化の原因となりますので、次のような十分な設置スペースを確保して下さい。

- 両側面は壁などから 10cm 以上離すこと
- 背面は壁などから 20cm 以上離すこと
- 吸気孔（正面下）を塞がないこと
- 上部の空間を塞がないこと

(e) 適切な設置環境を選ぶ

| ⚠危険 | ■ぐらつく場所、傾いた場所、台の上などに置かないこと<br>装置が転倒・落下し、けがの原因となります。<br>■水などの液体のかかる場所に置かないこと<br>火災・感電の原因となります。<br>■車、電車などの移動体に設置しないこと<br>振動、衝撃で UPS 内部の用品が破損し故障の原因となります。 |
|---|---|

次のような場所には UPS を設置しないでください。

- 0℃以下または 40℃を超える周囲温度
- 直射日光の当たる場所
- 90%を超える周囲湿度または結露する場所
- 強い振動や衝撃が発生する床
- 腐食性ガス、可燃性ガスが発生している場所（可燃性ガスには殺虫剤も含まれます。）
- 塵埃（じんあい）、塩分、鉄分の多い所
- 発熱する機器の近く
- 海抜 1000m 以上の場所

お願い：開梱後一時的に保管する場合も同様の注意をお願い致します。

## 4.2 バッテリについて

### 4.2.1 火災予防条例について

4800Ah・セル以上の蓄電池設備（バッテリ内蔵の UPS も含む）は、専用不燃区画に設置するよう定められています（火災予防条例準則第 11 条、13 条）。

したがって、同一防火区画内に単数または複数の UPS を設置するとき、バッテリ容量の和が 4800Ah・セル以上となる場合には、「火災予防条例」の規制対象となります。詳しい内容は、所管消防署にお問い合わせの上、「設置届出書」を提出してください。

表 4.1　UPS のバッテリ容量

| UPS 形式 | バッテリ容量（Ah・セル）注 |
|---|---|
| ECE3P-U20050N | 756 |
| ECE3P-U20075N | 1,008 |

注：Ah・セルはバッテリ容量を示す単位です。例えば、756Ah・セルとは、7Ah-12V(6 セル)のバッテリーを 18 個使用したバッテリ容量を示します(756=7.0×6×18)。

### 4.2.2 バッテリ交換予定日の記載について

UPS 装置正面に貼り付けられている注意銘板にバッテリ取替予定日記載欄がありますので UPS 設置時，バッテリ取替予定日を記載して，定期的なバッテリ交換をご計画ください。

## 4.3 電子計算機電源への耐震措置（転倒防止）について

「情報システム安全対策基準」（通商産業省告示第 518 号　平成 7 年 8 月 29 日）では、Ｖ設置規準 ホ地震対策 ｂ．電源設備（１）にて「電源設備は設置位置に応じた移動、転倒及び振動対策の措置を講ずること。」として転倒防止対策が求められています。

E3 プラスタイプ UPS には、標準仕様として、UPS 固定金具を用意しております。
施工方法は付録（72 ページ）を参照下さい。

## 4.4 搬入経路を確認する

| ⚠危険 | ■2 人以上で持ち運ぶこと<br>一人で運ぶと、けがの原因となります。<br>・5kVA　標準装置質量：約 145kg<br>・7.5kVA 標準装置質量：約 175kg |
|---|---|

E3 プラスタイプ UPS の質量は 5kVA にて約 145 kg､7.5kVA にて約 175kg (梱包質量は＋10 kg程度) あります。搬入前に、荷卸場所と搬入経路を搬入業者とご相談ください。チェックポイントは次の通りです。

- 搬入経路の床は硬い平面か？　カーペットか？
- 搬入する床の保護（ベニヤ板等）が必要か？
- 段差や階段があるか？　エレベータに搬入できるか？
- 必要な荷卸具があるか？　クレーン車が必要か？

## 4.5 UPS の開梱と設置

### (1)開梱前の点検

開梱前に外観に損傷（凹み）がないか確認してください。万一あれば、中の UPS も損傷している可能性があります。

その場合、開梱前に購入した販売店または当社の営業にご連絡ください。

お願い：重量物のため（梱包状態にて7.5kVA約185kg）、UPS開梱は強度のある床面上で行って下さい。

### (2)設置

| ⚠危険 | ■据付後、キャスターをストッパーで固定すること<br>固定しないと装置が動いたり、転倒し、けがの原因となります。<br>■端子台カバー、端子台を持って装置を扱わないこと<br>感電の原因となります。 |
|---|---|

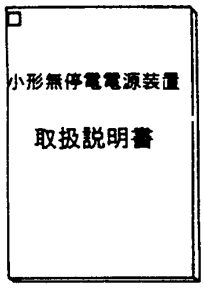
UPS を設置する位置に移動します。位置決めが終わったら、４つのキャスターをストッパーで固定して下さい。

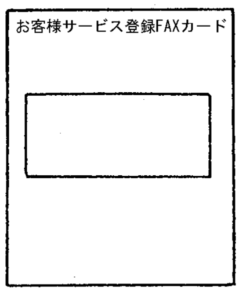
お願い：固定金具（標準仕様）で床面に UPS を固定する場合、固定金具の施工方法は付録（72 ページ）をご参照ください。

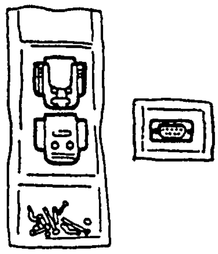
## 4.6 標準添付品の確認

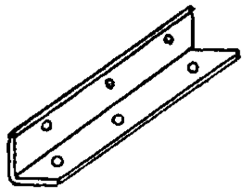
### (1)添付品の確認

下記の標準添付品を確認してください。





取扱説明書　1冊
バッテリ交換推奨パンフレット　1枚
バッテリリサイクル推奨書　1枚

お客様サービス登録ＦＡＸカード　1枚

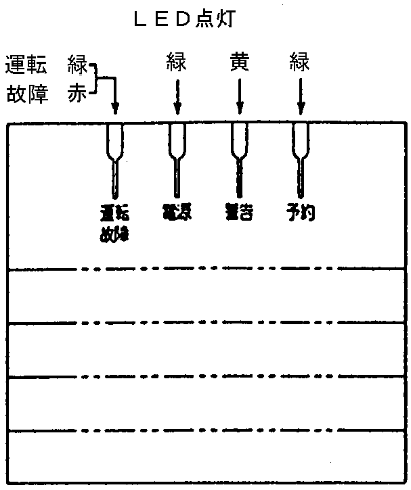
（同一の袋に入っています）

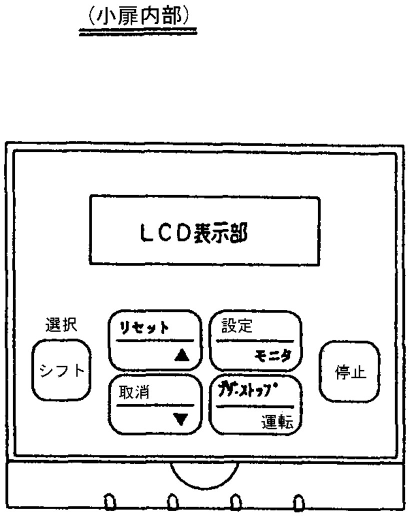
接点インタフェース用コネクタ　1式

Ｌ字型固定金具　2枚

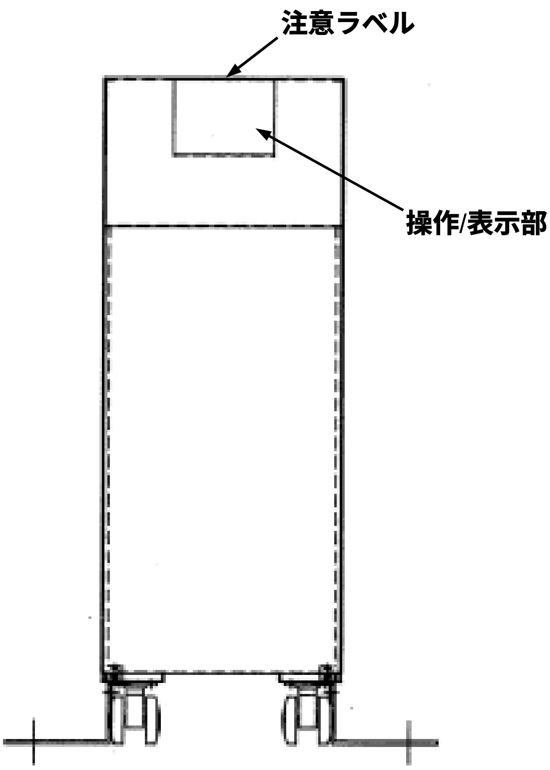
# 5. UPS 各部の名称と機能

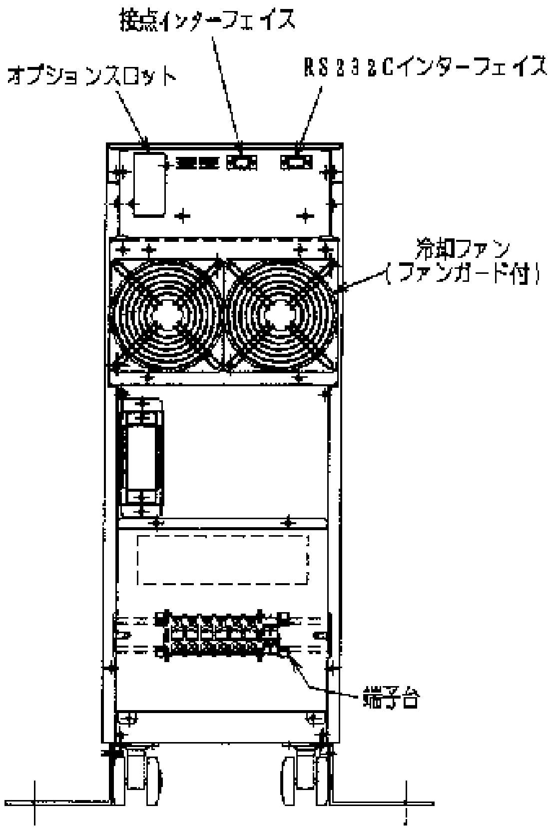
**表示／操作部**




**正面図**　　**背面図**




**○注意ラベル**

ＵＰＳ使用上の諸注意とバッテリ取替予定日記載欄があります。

ＵＰＳ設置時には、バッテリ取替予定日を必ず記載して、定期的なバッテリ交換を計画ください。

# 6. 配線接続工事

## [安全上のご注意]

| ⚠危険 | ■改造・分解・修理・部品交換・廃棄しないこと<br>火災・感電の原因となります。<br>修理・部品交換は販売店にご依頼ください。<br>廃棄は専門の廃棄物処理業者にご依頼ください。 |
|---|---|

## 6.1 接続の概要

UPS と電源、負荷との接続の概要は以下の通りです。
接続前に本章（6.1～6.3）をよくお読みになり、正しく接続してください。

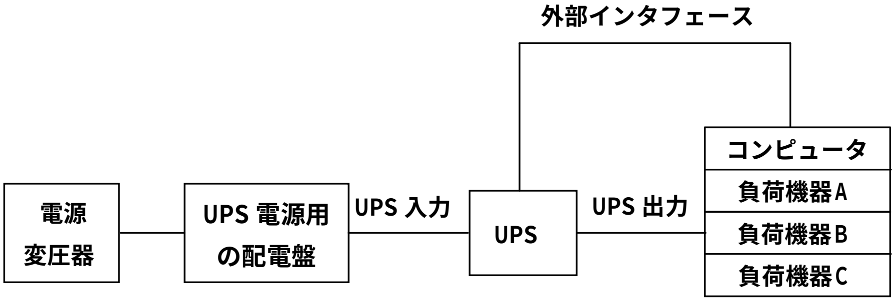



図 6.1　UPS との接続

## 6.2 入出力

(1)〜(4)の手順にしたがい配線と接続をします。

### (1) 電源を確認する

(a) 商用電源（単相 2 線式、200VAC、50/60Hz）から UPS に給電する場合、変圧器の電源容量を確認してください。

表 6.1 UPS の必要電源容量

| UPS 形式 | 必要電流 |
|---|---|
| ECE3P-U20050N | 25.0A |
| ECE3P-U20075N | 37.5A |

お願い：UPS に自家発電用の発電機、緊急発電用の発電機を接続する場合は単相容量が UPS 装置定格の 3 倍以上の発電機をご使用ください。また三相発電機を使用する際は発電機メーカーとご相談ください。
ご使用前に UPS と発電機との組合せ試験を実施し、問題なく UPS が立上がることをご確認ください。

(b) 電圧変動範囲の確認

電源電圧が許容電圧変動範囲（200V または 210V の＋10%/－15%）以内であることを確認してください。
入力電源が UPS の電圧変動範囲を外れている場合には、範囲内となるように入力電源を調整してください。

お願い：UPS 運転中に入力電源電圧が UPS 入力電圧変動範囲を外れますと入力電源異常（入力過電圧/入力電圧低下）を検出しバッテリバックアップモードとなります。

### (2) 配電盤のブレーカ定格を確認する。

UPS に給電する配電盤のブレーカ（MCCB）定格が表 6.2 の推奨定格より小さい場合、保護協調の点から、推奨定格以上のブレーカに交換することを推奨します。

表 6.2 UPS 用電源回路 MCCB

| UPS 形式 | 内蔵 MCCB 定格 | 推奨定格 |
|---|---|---|
| ECE3P-U20050N | 50A | 60A |
| ECE3P-U20075N | 50A | 60A |

### 3) 端子台の接続

| ⚠ 危険 | ■電源配線工事は電気工事士の資格者が行うこと<br>資格を持っていないかたが行うと、火災・感電の原因となります。<br>配線工事は販売店にご依頼されることをおすすめします。<br>■入出力端子台のカバーをはずす前に運転を停止し、入力ブレーカを「OFF」、配電盤の UPS 電源用ブレーカを「OFF」にすること<br>これらの操作をせずに、入出力端子台のカバーをはずすと、感電の原因となります。<br>■配線ケーブルを取り扱うときは、次の点を守ること<br>・引っ張ったり、無理に曲げたり、傷つけない。<br>・物を載せたり、加熱しない。<br>守らないと、ケーブルが破損し、火災・感電の原因となります。 |
|---|---|

ケーブルを入出力端子台の該当する端子に接続してください。

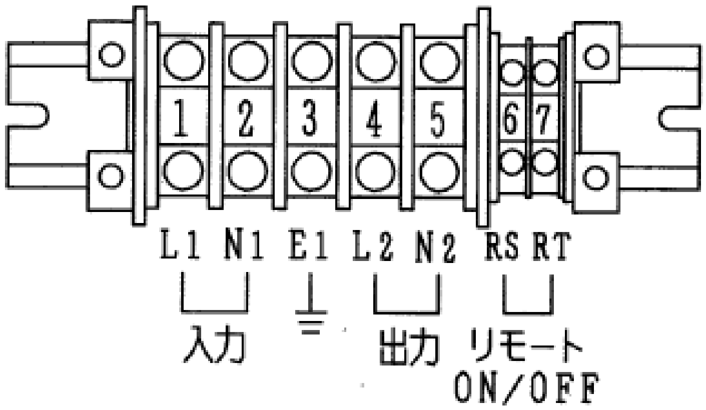



図 6.2　入出力端子台

お願い：UPS に電源を供給する分電盤 MCCB にてライン相（L1）とニュートラル相（N1）及びグランド（G）を確認願います。なお、入力と出力を間違って逆に接続しないようお願い致します。UPS が故障する原因となります。

## (4) 配線長とケーブルサイズを決める

UPS の入力側および出力側ケーブルの選定に際して、ケーブルインピーダンスによる電圧降下を考慮する場合、本項を参考としてください。

配電盤から UPS、UPS からコンピュータなどの負荷機器への配線は、電圧降下が各 2%以内となるように、表 6.3 から配線長に対応したケーブルサイズを決定してください。

お願い：配線長に対して十分なケーブルサイズ（ケーブル断面積 mm²）を選定してください。
UPS 電源入力側の配線長が長すぎたりケーブルサイズが小さすぎたりしますと、入力電源側の配線での電圧降下が大きくなり、入力電圧低下を検出する場合があります。

表 6.3　600V CV ケーブルの許容電流（A）

| 公称断面積 (mm²) ＼ 布設条件 | 空中/暗渠布設<br>$T_2$＝40℃ | 直埋布設<br>$T_2$＝25℃ | 管路布設<br>$T_2$＝25℃ |
|---|---|---|---|
| 2.0 | 28 | 38 | 26 |
| 3.5 | 40 | 54 | 36 |
| 5.5 | 52 | 69 | 47 |
| 8 | 66 | 85 | 56 |
| 14 | 94 | 115 | 79 |
| 22 | 125 | 155 | 100 |
| 38 | 170 | 205 | 135 |
| 60 | 230 | 265 | 180 |
| 100 | 315 | 345 | 235 |
| 150 | 415 | 440 | 300 |

お願い (1)：ご使用になるケーブルと適合圧着端子はユーザ側でご用意ください。
(2)：接地線については、断面積 3.5mm² 以上を有するケーブルをご使用ください。

## (5) 配線電圧降下計算法

表 6.3 で対応できない場合は、次の式と表 6.4 から電圧降下（△ε）が 2%以内となるケーブルサイズを決定し、使用してください。

電圧降下の計算式は、電線要覧等のケーブル・データを用いて次式（単相 2 線式の場合）に基づき、求めることができます。

$$\triangle\varepsilon = 2 \times I \times (R\cos\theta + X\sin\theta)$$

△ε；電圧降下 (V)，I；電流 (A)，R；ケーブルの抵抗分 (Ω)
X；ケーブルのリアクタンス分 (Ω)， cosθ ；力率

表 6.4　600V CV ケーブルのインピーダンス

| 公称断面積 (mm²) | 50Hz（Ω／㎞） | | | 60Hz（Ω／㎞） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | R | ωL | Z | R | ωL | Z |
| 2 | 12.0 | 0.108 | 12.0 | 12.0 | 0.130 | 12.0 |
| 3.5 | 6.76 | 0.0987 | 6.76 | 6.76 | 0.119 | 6.76 |
| 5.5 | 4.34 | 0.0974 | 4.34 | 4.34 | 0.117 | 4.34 |
| 8 | 2.98 | 0.0890 | 2.98 | 2.98 | 0.107 | 2.98 |
| 14 | 1.70 | 0.0828 | 1.71 | 1.70 | 0.0994 | 1.71 |
| 22 | 1.08 | 0.0820 | 1.09 | 1.08 | 0.0984 | 1.09 |
| 38 | 0.626 | 0.0771 | 0.631 | 0.626 | 0.0925 | 0.633 |
| 60 | 0.398 | 0.0768 | 0.405 | 0.398 | 0.0922 | 0.409 |

## (6)　配線電圧降下の計算例

公称断面積 14mm² 長さ 10m のケーブルにて、電流値 50A、力率 0.7、周波数 60Hz の電流を流した時の電圧降下は、

(Ω／㎞)　　　(Ω／㎞)

$$\Delta\varepsilon = 2 \times 50 \times (1.70 \times \frac{10(m)}{1000(m)} \times 0.7 + 0.0994 \times \frac{10(m)}{1000(m)} \times \sqrt{1-0.7^2})$$

$=2 \times 50 \times (0.0119 + 0.0007098)$　　1.26(V)

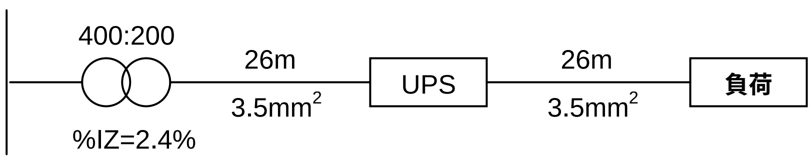
## (7)　配線電圧降下の不具合事例

配電盤から UPS、UPS から負荷機器への配線が長い場合、UPS がバイパスモード時にケーブルの電圧降下のため、負荷機器の入力電圧が電源仕様以下となることがあります。

この場合、負荷機器がシステムダウンしたり、正常動作しなかったりする恐れがあります。

また、400V 電源を 200V に降下するためには、トランスが用いられますが、そのトランスの電圧降下を考慮することも必要です。

実例として、下記のように一次側 400V、二次側 200V のトランスを配電盤側に接続し、そのトランスから 3.5mm² のケーブルで配線長 26m のところに UPS を、そして UPS(本例では入出力 200V とします)から負荷機器まで 3.5mm²、配線長 26m のケーブルで接続した場合、電圧降下は次のようになります。



上記条件にて周波数 60Hz 電流値 30A、力率 0.7 の電流を流した場合の電圧降下

①入力側

$$\Delta\varepsilon = 2\times 30\times(6.76\times\frac{26(m)}{1000(m)}\times 0.7 + 0.119\times\frac{26(m)}{1000(m)}\times\sqrt{1-0.7^2})$$

（Ω／km）　（Ω／km）

=2 × 30 × 0.125 = 7.5V

・トランス%IZ（＝2.4%）による電圧降下

200V×0.024＝ 4.8V

②出力側　　入力側と同じ 7.5V

UPS の入力側のケーブルで 12.3V（7.5＋4.8V）の電圧降下、UPS の出力側のケーブルで 7.5V の電圧降下となります。

UPS がインバータ運転の時には、UPS 入力側で 12.3V の電圧降下があっても、UPS は定格電圧 200V を出力するため、負荷機器には、出力側のケーブルによる 7.5V の電圧降下を差し引いた 192.5V の電圧が印加されます。

また、UPS がバイパス運転の時には、UPS の入力側と出力側の電圧降下を合わせると 19.8V となり、負荷機器には 180.2V が印加されます。

負荷機器の入力電圧仕様によっては、上記の電圧降下のために正常動作できなくなることが考えられます。この場合、配線の見直しが必要となります。

## (8)　不具合事例の対策（その 1）

配線ケーブルの電圧降下を抑えるためには、配線長を短くするかケーブルサイズを大きくする等の方法があります。

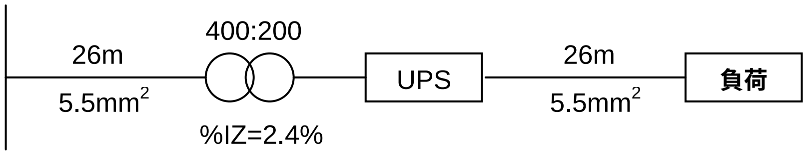
前記の事例において、UPS の入力側、出力側の配線長をそれぞれ半分の 13m にした場合、ケーブルの電圧降下がそれぞれ半分の 3.75V となりますので、UPS がバイパスモード時の電圧降下は 12.3V（3.75V＋4.8V＋3.75V）となります。

また、ケーブルサイズを大きくする方法も、同様な計算方法でわかる通り、ケーブルの電圧降下が抑えられます。

お願い：ケーブルサイズは表 6.4 の中から選定してください。表 6.4 のサイズ以上のケーブルを選定しますと適合圧着端子も大きいものを使用することになり、UPS の入出力端子台に接続できなくなることがあります。

## (9) 不具合事例の対策（その 2）

前記の事例において、トランスの 1 次側（400V）の電流は、2 次側（200V）の半分ということに着目し、トランスを UPS の入力側直前に設置した場合は以下のようになります。




上記のように配線とケーブルサイズを見直しますと

$$\Delta\varepsilon = 2 \times 15 \times (4.34 \times \frac{26}{1000} \times 0.7 + 0.117 \times \frac{26}{1000} \times \sqrt{1 - 0.7^2}) = 2.43V$$

① 入力側

・トランス%IZ による電圧降下＝4.8V

② 出力側

・ $\Delta\varepsilon = 2 \times 30 \times (4.34 \times \frac{26}{1000} \times 0.7 + 0.117 \times \frac{26}{1000} \times \sqrt{1 - 0.7^2}) = 4.87V$

UPS がバイパス運転時の電圧降下は 12.1V（2.43V＋4.8V＋4.87V）となります。

## 6.3 接地

### (1) 接地の目的

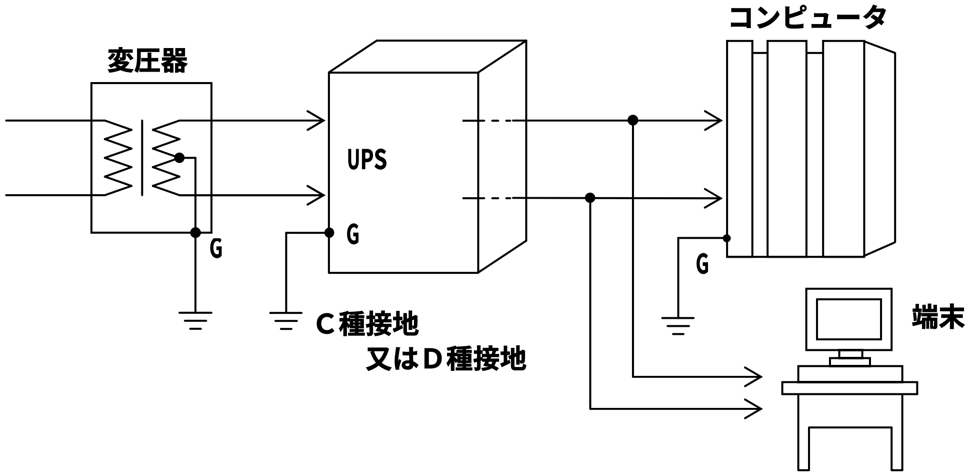
① 漏電による感電防止

② 外来ノイズの影響による電位の変動に対する機器の保護

### (2) UPS の接地

UPS の接地としては、Ｃ種接地（１０Ω以下）又はＤ種接地（１００Ω以下）が必要となります。UPS にはマイコンやＩＣ等の電子回路が収納されているため、ノイズ対策を行うことが信頼性を向上させる必須条件となります。

UPS では、他の機器の接地との混在を避け図Ｂの様にできるだけ専用接地としてください。




接地を共用する場合は、図 C の様に接地極付近で共用してください。

接地方式として、図 A に示す配線方式を採用すると、コンピュータの接地電圧が変動することがあり、コンピュータ誤動作の一因となります。

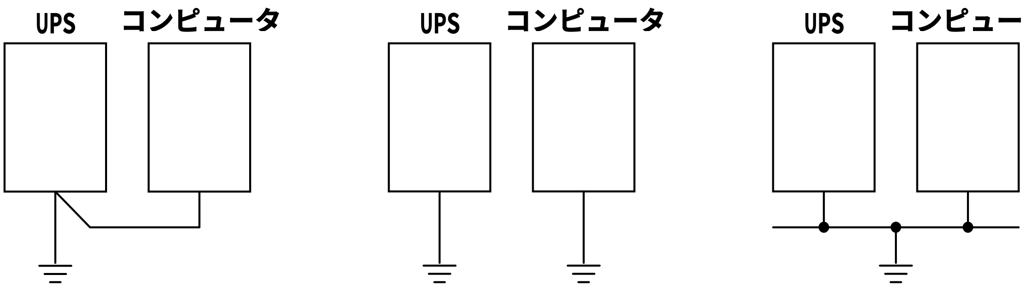



図 A （悪い例）　図B 専用接地　図C 接地極付近での接地 （良い例）

| ⚠危険 | ■接地を確実に接続すること<br>接地を確実に接続しないと、故障・漏電のときに感電の原因となります。<br>また、ノイズ混入の原因にもなります。<br>■接地指定場所に確実に接続してください。（D 種接地） |
|---|---|

### ⑶ 電子計算機システムの安全対策基準について

コンピュータの誤動作を防止するため、接地は大変重要です。できる限り、コンピュータはコンピュータ専用接地とし、UPS の接地と分離してください。電子計算機システム安全対策基準（昭和 59 年 11 月（社）情報サービス産業協会発行）よりコンピュータの接地に関する項を下記に抜粋し、説明を補足します。

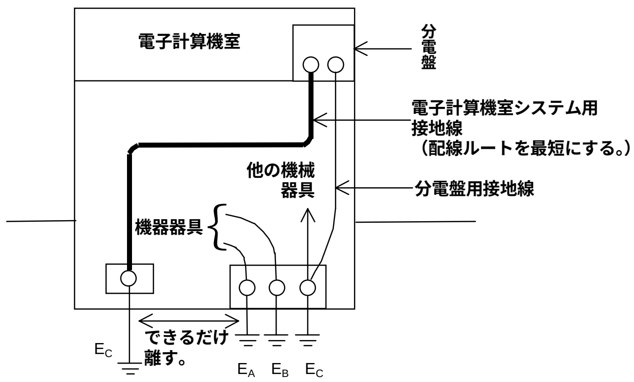
抜粋（一部加筆）

（段階の区分：A、B）

設 IV-(8)
電子計算機システムの接地は、専用のものとすること。やむを得ず共用する場合は、接地を接地極付近で行うこと。

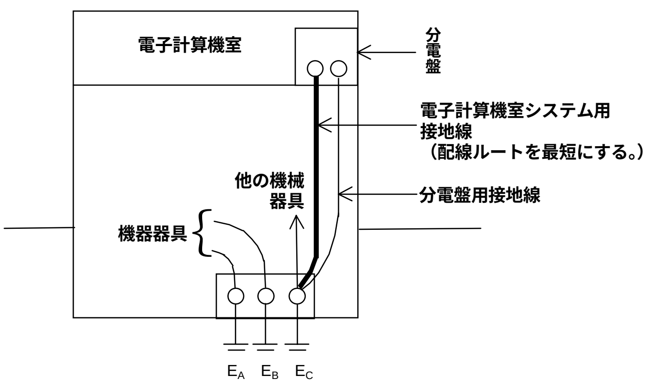
1．電子計算機システムの接地は、他の電気機器からの影響を防ぐため、専用の接地線を分電盤まで設けること。

接地を専用とする場合の接続の例




2．接地を共用する場合は、図のように接地極付近で共用すること。

接地を専用とする場合の接続の例



# 7. 外部インタフェース

| ⚠ 危険 | ■入出力端子台のカバーをはずす前に、停止スイッチを「ON」、入力ブレーカを「OFF」、配電盤の UPS 電源用ブレーカを「OFF」にすること<br>これらの操作をせずに、入出力端子台のカバーをはずすと、感電の原因となります。 |
|---|---|
| | ■改造・分解・修理・部品交換・廃棄しないこと<br>火災・感電の原因となります。<br>修理・部品交換は販売店にご依頼ください。<br>廃棄は専門の廃棄物処理業者にご依頼ください。 |
| | ■配線コードを取り扱うときは、次の点を守ること<br>・引っ張ったり、無理に曲げたり、傷つけない。<br>・物を載せたり、加熱しない。<br>守らないと、コードが破損し、火災・感電の原因となります。 |

## 7.1 外部インタフェースの種類

次のような 3 種の外部インタフェースを UPS 背面に標準装備しています。

- リモート運転／停止信号入力インタフェース……UPS の運転／停止を外部から制御
- 外部接点インタフェース……UPS の運転とトラブルを外部から監視
- RS-232C インタフェース……コンピュータから UPS を細かく監視／制御

### (1) リモート運転／停止制御信号入力のインタフェース

離れた場所（有効距離：10m 以内）から UPS を運転／停止するための入力端子です。UPS 背面下側のリモート運転／停止端子に、シールド線を下図のように接続します。

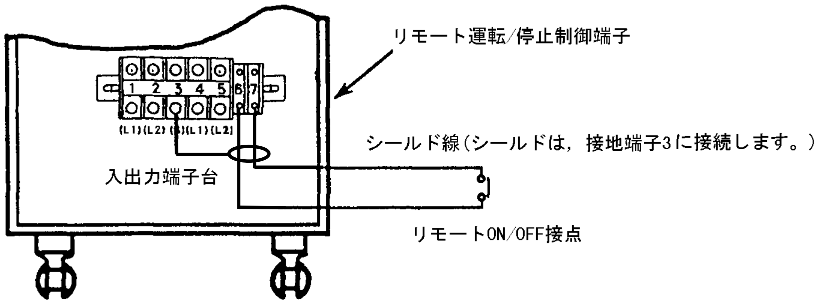



図 7.1　シールド線の接続

お願い：ノイズによる誤動作を防止するため、インタフェース用信号ケーブルは必ずシールド線を使用してください。

表 7.1　リモート運転／停止信号入力インタフェース仕様

| 信号入力 | 無電圧接点（DC10V-5mA）<br>リモート停止の制御入力は、UPS 運転（ｲﾝﾊﾞｰﾀ運転）に限り有効です。<br>「閉」でリモート停止（バイパス給電または出力遮断）、「開」でインバータ運転へ復帰します。<br>また停電時にリモート停止できますが、再度インバータ運転することはできません。 |
|---|---|

## (2)　外部接点インタフェース

コンピュータから UPS を監視する接点信号を取り出すコネクタです。ケーブル側コネクタ（D-Sub9 ピン）は UPS 本体に標準添付されています。「7.2 外部インタフェースコネクタの組立」(40 ページ)にしたがって、インタフェース・ケーブルを作成し、接続します。

なお、コネクタ固定用ネジはインチネジ（サイズ：#4-40）を使用しています。

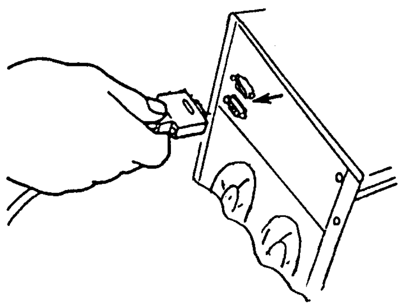
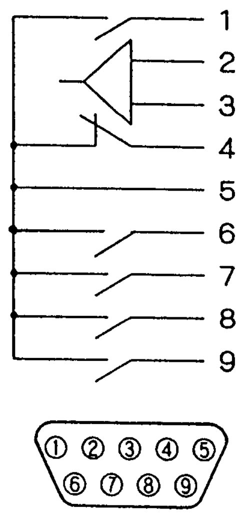


表 7.2 外部接点信号

<table>
<tr><th>ピン番号</th><th colspan="2">信号の意味</th><th colspan="2">論理</th><th>装置内</th></tr>
<tr><td>1</td><td colspan="2">故障信号</td><td colspan="2">故障にて閉</td><td rowspan="12"><br>装置側オスD-sub<br>(インチネジ)</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="2">装置停止用コモン</td><td colspan="2" rowspan="2">L(－3～－15V)→H(+3～+15V)<br>レベル変化時バックアップ停止</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="2">装置停止信号入力</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="2">入力電源正常</td><td colspan="2">電源正常にて閉</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="2">信号コモン</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="2">バイパス運転</td><td colspan="2">バイパス運転にて閉</td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="2">バッテリ電圧低下</td><td colspan="2">電圧低下にて閉</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="2">UPS 運転</td><td colspan="2">インバータ運転にて閉</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="2">停電信号</td><td colspan="2">停電にて閉</td></tr>
<tr><td rowspan="2">接点の最大通電容量</td><td></td><td></td><td>電圧</td><td>電流</td></tr>
<tr><td colspan="2">直流/交流</td><td>24V</td><td>70mA</td></tr>
</table>

お願い：電圧値、電流値共にこの数値を超過しない様にしてください。

## UPS 停止信号（前頁 D-sub２、３ﾋﾟﾝ）に関する動作説明

外部接点インタフェースの UPS 停止信号を利用することで､次の自動シャットダウン機能を持つ OS を自動的にリセットし再投入運転することができます。これは以下のような OS と UPS の動作によって実行されます。

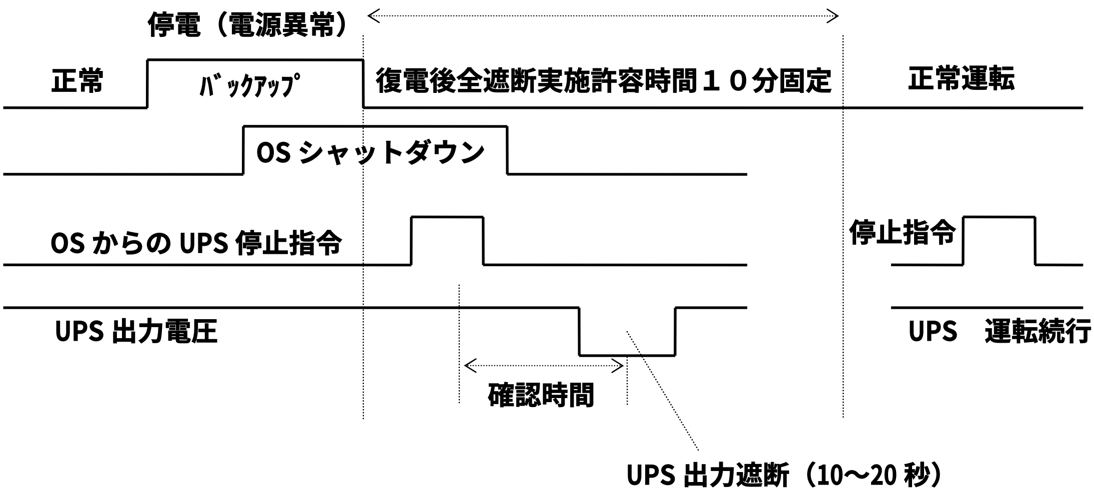
対象機種　：Windows NT、IBM OS/2 LAN ｻｰﾊﾞｰ
非対象機種：NetWare

１．OS は停電時に UPS の停電信号を検出して、シャットダウン処理を開始します。
２．シャットダウン処理終了時に OS が UPS に停止信号を出力し、UPS は停止します。
３．電源が正常に復帰した場合、UPS は自動的に出力を開始し、OS が再起動されます。

シャットダウン処理の途中で電源が正常に復帰した場合でも、電源の復帰後 10 分以内であれば OS を再起動するために UPS は出力を一時（10〜20 秒）遮断停止します。

この場合、電源が正常であるにも関わらず UPS が出力を遮断停止することになります。
従って、誤って UPS の出力を遮断させることのないよう、自動処理を実施する場合以外は外部接点インタフェースの UPS 停止信号を接続しないようにしてください。

なお、電源の復帰後 10 分以上経過してから UPS に停止信号が入力された場合は、この信号は無視されＵＰＳは出力を継続します。



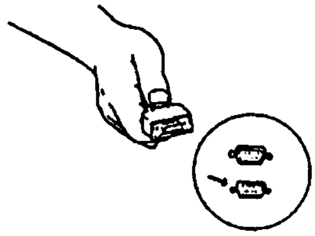

Windows NT は、米国 Microsoft 社の商標です。
IBM OS/2 LAN ｻｰﾊﾞｰは、米国 IBM 社の商標です。
NetWare は、米国 Novell 社の商標です。

| ⚠注意 | ■復電後 10 分以内は、起動･再起動するとコンピュータが再起動途中で電源リセットがかかることがあります。 |
|---|---|

### (3) RS-232C インタフェース

RS-232C インタフェースは、コンピュータと UPS 間（推奨距離：10m 以内）で、キャラクタメッセージを送受信し、UPS の状態を監視するための通信インタフェースです。

同インタフェースケーブルは、別売の D-Sub9P/9P または 9P/25P のクロスケーブルを使用できます。通信コマンドの専用取扱説明書は、別途、弊社営業または販売店までご請求ください。



お願い：UNIX 系及び Windows 系に対する各種モニタリングソフトを用意しております。
詳しくは弊社営業または販売店にお問合せください。

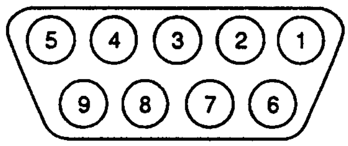
(a) RS-232C インタフェースからのデータと内容（一例）は次の通りです。

表 7.3　RS-232C インタフェースからのデータ

| データ | 内容 | データの方向 |
|---|---|---|
| 1. UPS 出力電圧 | %表示 | コンピュータ←UPS |
| 2. 同出力電流 | %表示 | 同上 |
| 3. 同出力周波数 | 50.3Hz（例） | 同上 |
| 4. 同入力電圧 | %表示 | 同上 |
| 5. 同入力周波数 | 50.0Hz（例） | 同上 |
| 6. 故障内容 | ビットで表示 | 同上 |
| 7. UPS ステータス（故障、警告、停電、バイパス/インバータ運転、電源同期） | ビットで表示 | 同上 |
| 8. バッテリ電圧 | %表示 | 同上 |
| 9. UPS 停止指令 | | コンピュータ→UPS |

**(b) RS-232C インタフェースのピン配置は以下の通りです。**

**表 7.4　ピン配置およびコネクタ形状**

| ピン No. | 信号名 | 意　味 | 信号方向 |
|---|---|---|---|
| 1 | - | | |
| 2 | RXD | 受信データ | 入力 |
| 3 | TXD | 送信データ | 出力 |
| 4 | - | データ端末レディ | |
| 5 | GND | 信号グランド | 内部接続 |
| 6 | - | データセットレディ | |
| 7 | - | 送信要求 | 内部接続 |
| 8 | - | 送信可 | |
| 9 | - | | |
| UPS 側コネクタ形状 | |  | D-Sub9 ピン メス |

**(c) RS-232C インタフェースの通信条件は以下の通りです。**

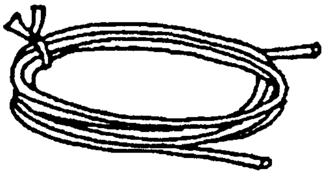
**表 7.5　RS-232C インタフェースの通信条件**

| | | |
|---|---|---|
| 1) | 通信方式 | 半二重通信方式（直列伝送） |
| 2) | 接続制御方式 | セントラライズド制御方式<br>ポーリング／セレクティング方式 |
| 3) | 伝送速度 | 1200/2400/4800/9600 ボー |
| 4) | 同期方式 | 調歩同期方式 |
| 5) | 伝送コード | JIS X 0201 7bit(ANSI) |
| 6) | 誤り検出方式 | 垂直パリティチェック偶数（VRC）<br>水平パリティチェック偶数（LRC） |
| 7) | 誤り訂正方式 | なし |
| 8) | 応答監視方式 | なし |
| 9) | 伝送キャラクタ形式 | 10 ビット |
| 10) | ビット送り出し順位 | 低位ビット先行 |
| 11) | フレーム長（情報メッセージ） | 可変長 |

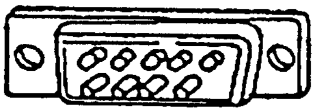
## 7.2 外部インタフェースコネクタの組立

### (1) 必要部品の確認

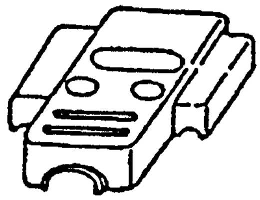
ケーブル／リード線（①）はユーザ側でご用意ください。標準添付されているコネクタ部品②～⑥を確認ください。



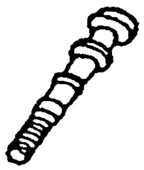
①ケーブル



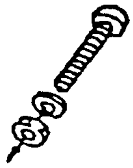
②D-Sub9 ピンコネクタ（メス）



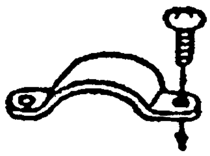
③ハウジング 2 個



④コネクタ固定ネジ 2 本



⑤ハウジング組立用ネジ
バネワッシャ／ナット 2 本

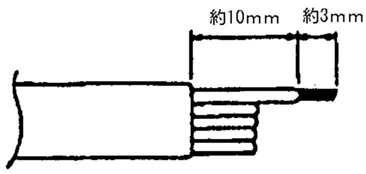


⑥ケーブル固定用金具ネジ 2 本

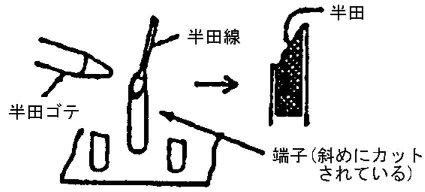
## (2) コネクタ組立

コネクタ組立は(a)～(e)の順で行います。

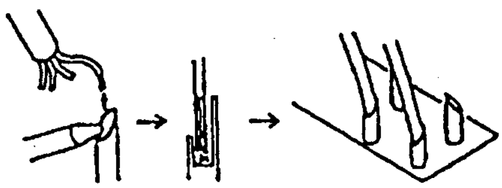
(a) ケーブル／リード線の被覆をむきます。



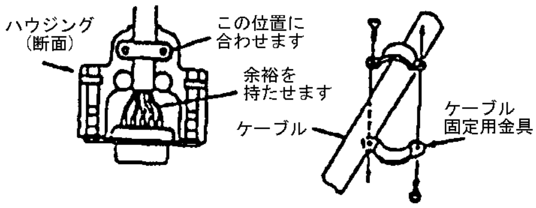

(b) コネクタのリード線接続用端子の穴にハンダを流し込みます。



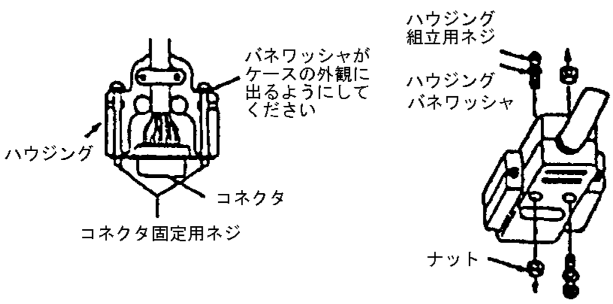

(c) 流し込んだハンダを温めつつリード線を挿入します。（端子間が狭いため、となりの端子と接触しないよう注意してください。）



(d) ケーブル固定用の金具位置をハウジングに合わせ決め、取り付けます。




(e) ハウジングを組み立てます。




お願い：組立上の注意

- ハンダ作業は経験者が手早く行ってください。ハンダの温度が低下すると接続不良の原因になります。
- コネクタ固定用ネジはインチねじ（サイズ:#4-40）を使用しています。

# 8. 使用前の点検と確認

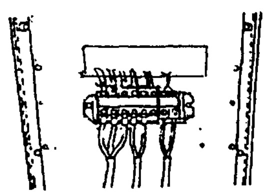
<table>
<tr><td rowspan="5">⚠危険</td><td>■入出力端子台のカバーをはずす前に、UPS を停止し、入力ブレーカを「OFF」、配電盤の UPS 電源用ブレーカを「OFF」にすること<br>これらの操作をせずに、入出力端子台のカバーをはずすと、感電の原因となります。</td></tr>
<tr><td>■配線ケーブルを取り扱うときは、次の点を守ること<br>・引っ張ったり、無理に曲げたり、傷つけない。<br>・物を載せたり、加熱しない。<br>守らないと、ケーブルが破損し、火災・感電の原因となります。</td></tr>
<tr><td>■装置の上や近くに、飲み物など液体の入った容器を置かないこと<br>液体がこぼれて内部に入ると、火災・感電の原因となります。</td></tr>
<tr><td>■キャスターに取付けたストッパーを外さないこと<br>装置が動いたり、転倒し、けがの原因となります。</td></tr>
<tr><td>■上に乗ったり、座ったり、寄りかからないこと<br>装置が転倒し、けがの原因となります。</td></tr>
</table>

UPS の設置・配線接続工事が完了したら、UPS への通電を開始する前に、必ず次の点検と確認を実施してください。

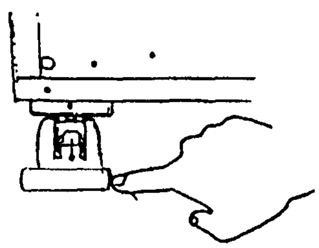
## 8.1 接続完了のチェック

(1) 配電盤の UPS 電源用ブレーカーが「OFF」、
UPS 背面の入力ブレーカが「OFF」側にある。

(2) 入出力ケーブルが端子台に確実に配線・接続されている。

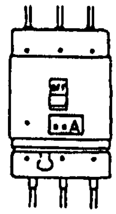


(3) キャスターはストッパー（コの字形固定器具）がつけられている。

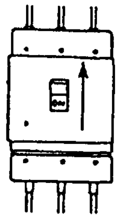


## 8.2 電源の確認

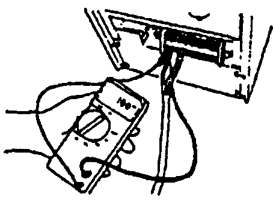
(1) 配電盤の UPS 電源用ブレーカサイズ（表 6.2）と電圧が許容変動範囲（200V または 210V の＋10%/－15%）以内であることを確認します。



(2) 配電盤の UPS 電源用ブレーカを「ON」（上側）にします。



(3) UPS の入力端子で、電圧が許容変動範囲(200V または 210V の＋10%/－15%)以内であることを電圧計で測定し確認します。



お願い：UPS 入力電圧が異常の場合、電気設備管理者に調査を依頼して電圧を正常な範囲にしてください。入力電圧異常のまま使用しますと、入力電圧低下または入力過電圧を検出してバックアップモードとなりバッテリ給電となります。このままの運転が続きますと、やがてバッテリシステムダウン電圧を検出し、出力遮断となり、負荷への給電が停止します。

# 9. UPS の運転操作方法

## [安全上のご注意]

| ⚠ 危険 | ■吸気口、排気口などから、金属棒を差し込んだり、内部に入れないこと<br>（1） 火災、感電の原因となります。<br>（2） 排気口には冷却ファンが取付けられているため ファンによる巻きこみの原因となります。<br>■上に乗ったり、座ったり、寄りかからないこと<br>装置が転倒して、けがの原因となります。<br>■キャスターに取付けたストッパーを外さないこと<br>装置が動いたり、転倒し、けがの原因となります。<br>■装置の上や近くに､飲み物など液体の入った容器を置かないこと<br>液体がこぼれて内部に入ると､火災･感電の原因となります。<br>■装置と入出力端子台のカバーをはずさないこと<br>内部は電圧の高い部分があり、感電の原因となります。 |
|---|---|

| ⚠ 注意 | ■ぬれた手で操作したり、ぬれた布などでふかないこと<br>感電の原因になります。<br>■警報ブザーが鳴り、運転／故障ランプが赤色に点灯したときは、60 ページの「12.トラブルシューティング」にしたがうこと<br>したがわずにそのまま運転を続けると､処理中のデータを破壊する原因となります。 |
|---|---|

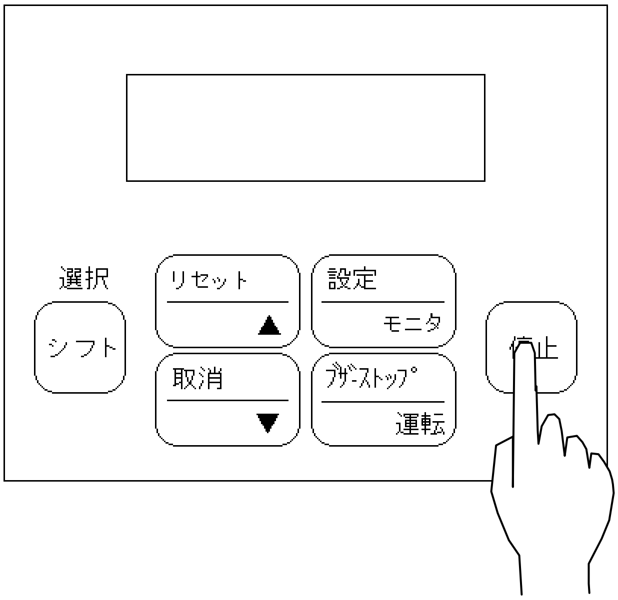
## 9.1 手動操作にて運転／停止させる場合

### (1) UPS を停止させる方法

UPS を停止させるには、「停止」ボタンを「ピー」というブザー音がなるまで押します（約１秒押し続けます）。

この時、「運転／故障」LED は消灯し、「電源」LED のみ点灯となり UPS は無瞬断でバイパス運転に切替ります。

さらに、UPS を完全に停止させるためには、背面の入力ブレーカを「OFF」にしてください。




| ⚠注意 | ■入力ブレーカを「OFF」する前に、負荷機器を停止させること（停止方法は負荷機器の取扱説明書を参照）<br>負荷機器を停止させず入力ブレーカを「OFF」すると、処理中のデータを破壊する原因となります。 |
|---|---|

### (2) UPS を運転する方法

| ⚠注意 | ■初めて運転するときや、バッテリバックアップ運転後は、負荷機器を使用する前に 24 時間以上充電（入力ブレーカを「ON」）すること<br>充電しないと、バッテリバックアップ運転時間が短くなり、処理中のデータを破壊する原因となります。 |
|---|---|

(a)UPS 背面の入力ブレーカを「ON」にします（通常、入力ブレーカは「ON」の状態にしておきます）。「電源」LED の点灯（緑色）を確認します。

入力ブレーカを「ON」にした瞬間に UPS 操作パネル上の LED が一瞬点灯することがありますが、異常ではありませんのでそのままお使いください。

(b)「運転」ボタンを「ピー」というブザー音がなるまで押します（約１秒）。「運転／故障」LED の点灯（緑色）を確認します。UPS はバイパス運転からインバータ運転に無瞬断で切替ります。

お願い：電源が不安定な場合などには、UPS はバイパスとインバータ運転の切り替えをスムーズにおこなうための処理を行います。このため、運転切替の操作から実際の動作まで数秒程度の時間がかかる場合があります。運転／停止ボタンを操作した際には必ず「運転／故障」LED の点灯／消灯を確認してください。

## 9.2 スケジュール運転

Ｅ３プラスタイプは、UPS 内部の時計を利用して、あらかじめ設定した時刻がくると自動的に運転を開始、または停止させるスケジュール運転が行えます。ただし、この場合、RS-232C インタフェース付きのパソコン、ワークステーションと通信用のケーブルが必要となります。

（通信の詳細な方法・スケジュール運転の設定方法などに関しては別冊の通信取扱説明書、スケジュール運転方法を参照してください。）

UNIX 系、Windows 系ＯＳ用の各種モニタリングソフトを用意しており、本ソフトを使用した

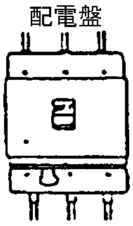
スケジュール運転も行えます。購入した販売店または弊社営業窓口までお申しつけください

## 9.3 UPS の電源を遮断する場合

| ⚠注意 | ■入力ブレーカを「OFF」する前に、負荷機器を停止させること（停止方法は負荷機器の取扱説明書参照）<br>負荷機器を停止させず入力ブレーカを「OFF」すると、処理中のデータを破壊する原因となります。 |
|---|---|

UPS が停止中であることを確認（運転/故障 LED が消灯）のうえ背面の入力ブレーカを「OFF」（下側）にし、配電盤の UPS 電源用ブレーカも「OFF」にします。配線工事に先立ち、この２つのブレーカは必ず「OFF」にします。

配電盤



UPS の「電源」LED が消灯します。

お願い：UPS の「電源」LED の消灯を確認してください。

## 9.4 長期間運転しない場合

| ⚠ 注意 | ■3ヵ月以上停止させるときは､3ヵ月に一度は24時間以上充電（入力ブレーカを「ON」）すること<br>充電しないとバッテリが劣化し、バッテリバックアップ運転時間が短くなり、処理中のデータを破壊する原因となります。 |
|---|---|

「停止」ボタンを押し、UPSを停止させます。背面の入力ブレーカも「OFF」にします。

お願い：① 長期間UPSを使用しない場合、3ヶ月毎に1度必ず24時間UPSを電源に接続し、入力ブレーカを「ON」（上側）してバッテリの補充電を実施してください。UPSを長期間使用せずに放置すると、バッテリが過放電状態となり、バッテリの寿命を著しく低下させる原因となります。
② UPSを保管する場合には、塵埃、湿度の侵入を防止するための処置をする様お願い致します。

## 9.5 バッテリのフル充電

バッテリの保持時間は10分です。フル充電するには、UPSに入力電源を給電し、UPS運用開始の24時間以上前から、入力ブレーカを「ON」（上側）にします。

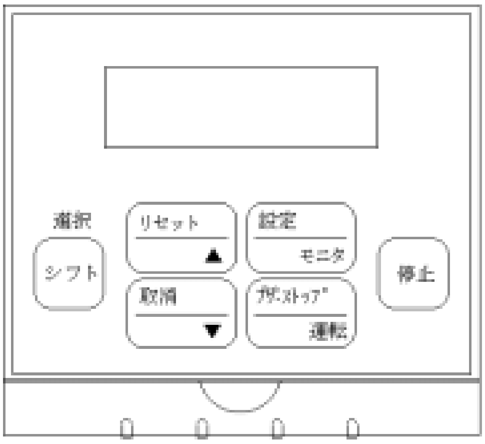
充電は、入力ブレーカを「ON」（上側）にするだけで行うことができます。

# 10. 運転中の動作と表示

| ⚠危険 | ■万一、煙がでている、変なにおいがするなどの異常のときは、すぐに運転を停止し、入力ブレーカを「OFF」にすること<br>そのまま使用すると、火災の原因となります。<br>操作後は、販売店に修理をご依頼ください。 |
|---|---|

## 10.1 操作部詳細

下図に UPS 操作部の詳細を示します。LED は常に UPS 前面から見ることができますが、LCD および操作部分は、前面上部の小扉を開いて確認／操作します。




各ボタンの操作概要を下記に示します。

| 「選択／シフト」ボタン | 各ボタンの上側に表示された機能を実行する際に、そのボタンと同時に押します。また、内部データ設定画面で、設定モードへ移行する際には単独で使用します。 |
|---|---|
| 「リセット／▲」ボタン | 表示を上スクロールします。またシフトボタンと同時に使用すると、表示をリセットできます。 |
| 「取消／▼」ボタン | 表示を下スクロールします。またシフトボタンと同時に使用すると、前の操作を取り消します。 |
| 「設定／モニタ」ボタン | LCD 表示画面を切り替えます。またシフトボタンと同時に使用すると、設定モードでデータを確定します。 |
| 「ﾌﾞｻﾞｰｽﾄｯﾌﾟ／運転」ボタン | UPS を運転します。また、故障などでブザーが鳴った際にシフトボタンと同時に押すことで、ブザーを停止できます。 |
| 「停止」ボタン | UPS を停止（バイパス運転に切り換え）します。 |

LED は UPS の基本的な運転状態や、故障／警告といった状態を示します。したがって小扉を開くことなく、UPS の動作を確認することができます。

下表に LED と UPS の運転状態の関係を示します。

| | | |
|---|---|---|
| 「運転／故障」LED | 緑色点灯 | UPS（ｲﾝﾊﾞｰﾀ）運転中 |
| | 緑色点滅 | 出力遮断中 |
| | 赤色点灯 | UPS 故障 |
| | 消灯 | バイパス運転中／UPS（ｲﾝﾊﾞｰﾀ）停止中 |
| 「電源」LED | 緑色点灯 | 入力電圧正常 |
| | 緑色点滅 | 入力電圧異常(入力過電圧、周波数異常) |
| | 消灯 | 入力不足電圧または停電 |
| 「警告」LED | 黄色点灯 | 警告あり（バッテリ交換など） |
| | 黄色点滅 | 警告あり（過負荷時など） |
| | 消灯 | 警告なし |
| 「予約」LED | 緑色点灯 | スケジュール／タイマ予約設定あり |
| | 緑色点滅 | 予約実行予告（５分前） |
| | 消灯 | スケジュール／タイマ予約設定なし |

LCD は、UPS の詳細な運転状態や UPS 内部のデータを表示します。

LCD 表示には以下に示す3通りの画面があり、それぞれ、UPS の状態や内部のデータ内容を表示します。画面は「モニタ」ボタンを押すことで下記のように変わります。

「基本表示画面」→「個別データ表示画面」→「内部データ表示画面」→「基本表示画面」に戻る

１．基本表示画面

UPS を立ちあげた状態で表示される画面です。UPS の詳細な運転状態を表示します。また、故障や警告状態が生じた場合には、その内容を表示します。

２．個別データ表示画面

基本表示画面から「モニタ」ボタンを押すことで個別データ表示画面となります。この画面では、入出力の電圧、電流、周波数など、より詳細な内部データを個別に表示します。

３．内部データ設定画面

個別データ表示画面から、再度「モニタ」ボタンを押すことで内部データ設定画面となります。UPS が内部にもっている時計の時刻合わせや UPS の運転状態の設定などに使用されます。

それぞれの表示画面について、以下に詳細を説明します。

## 10.2 基本表示画面

UPS の電源ブレーカを「ＯＮ」にし、UPS に電源が供給された状態では LCD は基本表示画面となります。この画面では、通常、UPS の動作状態を表示し、警告や故障が発生した場合には、その内容を示します。

電源投入時には次のような画面が表示されます。

```
UPS  ｷﾄﾞｳﾁｭｳ
ｼﾊﾞﾗｸ ｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ
     ↓
1997/ 4/ 15(TUE)
15:22:47
     ↓
ﾊﾞｲﾊﾟｽ ｳﾝﾃﾝﾁｭｳ
ﾌｶﾘﾂ  56%
```

この時表示される、日付，時計が実際とずれている場合には、内部データ設定画面の項で説明する方法で設定を行ってください。

運転ボタンを押すかまたは自動運転が設定されている場合には、この後、直ちに UPS 運転となります。またバッテリテストが実行される場合は下記の通りとなります。

```
UPS ｳﾝﾃﾝﾁｭｳ
ﾌｶﾘﾂ  56%
     ↓
ﾊﾞｯﾃﾘ ﾃｽﾄ ﾁｭｳ
ﾊﾞｯﾃﾘ ﾃﾞﾝｱﾂ 95%
     ↓
UPS ｳﾝﾃﾝﾁｭｳ
ﾌｶﾘﾂ  56%
```

この後、LCD の１行目に UPS の運転状態を、２行目には負荷率または警告／故障内容を表示します。警告や故障が発生した場合の表示については、「警告／故障発生時の表示」の項を参照してください。１行目に表示される運転状態としては、下記の種類があります。

| | | |
|---|---|---|
| UPS ｳﾝﾃﾝﾁｭｳ | : | 通常の UPS 運転中です。 |
| ﾊﾞｲﾊﾟｽ ｳﾝﾃﾝ ﾁｭｳ | : | UPS は停止し、バイパスから給電しています。 |
| ｼｭﾂﾘｮｸ ｼｬﾀﾞﾝ ﾁｭｳ | : | UPS、バイパス回路とも停止し、出力へ給電していない状態です。 |
| ﾊﾞｯﾃﾘ ｳﾝﾃﾝ ﾁｭｳ | : | 入力電源異常により､バッテリを使用して負荷へ給電しています。 |
| ﾊﾞｯﾃﾘ ﾃｽﾄ ﾁｭｳ | | バッテリテスト（運転開始設定／自動テスト設定／手動・通信実行）時、強制的にバッテリ給電している状態です。 |
| ｺｼｮｳ(ﾊﾞｲﾊﾟｽｳﾝﾃﾝ) | : | 故障が発生し、バイパスから給電している状態です。 |
| ｺｼｮｳ(ｼｭﾂﾘｮｸ ﾃｲｼ) | : | 故障が発生し、出力を遮断している状態です。 |

## 10.3 個別データ表示画面

UPS の入出力電圧や周波数などのデータを個別に表示することができます。基本表示画面において、「モニタ」ボタンを１回押すことで、本表示画面となります。

| 基本表示画面 | 「ﾓﾆﾀ」ﾎﾞﾀﾝ | 個別データ表示画面 |
|---|---|---|
| UPS ｳﾝﾃﾝﾁｭｳ<br>ﾌｶﾘﾂ 56% | → | M ﾆｭｳﾘｮｸ ﾃﾞﾝｱﾂ<br>194V |

この画面では「△」「▽」ボタンによって、表示されるデータの種類が次に示す順番で変化します。

'M'表示は個別データ表示モードの先頭を示します。

| 項目 | 表示 | 「選択」 | 選択後の表示 |
|---|---|---|---|
| 入力電圧<br>▽△ | M ﾆｭｳﾘｮｸ ﾃﾞﾝｱﾂ<br>194V | | |
| 入力周波数<br>▽△ | ﾆｭｳﾘｮｸ ｼｭｳﾊｽｳ<br>49.9Hz | | |
| 出力電圧<br>▽△ | ｼｭﾂﾘｮｸ ﾃﾞﾝｱﾂ<br>200V | | |
| 出力周波数<br>▽△ | ｼｭﾂﾘｮｸ ｼｭｳﾊｽｳ<br>50.0Hz | | |
| 負荷電流<br>▽△ | ﾌｶ ﾃﾞﾝﾘｭｳ<br>56% | | |
| バッテリ電圧<br>▽△ | ﾊﾞｯﾃﾘ ﾃﾞﾝｱﾂ<br>98% | | |
| バッテリ交換日<br>▽△ | ﾊﾞｯﾃﾘ ｺｳｶﾝﾋﾞ<br>1997/3/25 | | |
| バッテリ寿命<br>▽△ | ﾊﾞｯﾃﾘ ｼﾞｭﾐｮｳ<br>ﾉｺﾘ 3.5 ﾈﾝ | | |
| 内部温度<br>▽△ | ﾅｲﾌﾞ ｵﾝﾄﾞ<br>28℃ | | |
| 日付／時刻<br>▽△ | 1997/ 4/15(TUE)<br>14:32 | | |
| タイマ運転設定<br>▽△ | ﾀｲﾏ ｳﾝﾃﾝ ｾｯﾃｲ<br>ｾﾝﾀｸｷｰ:ｾｯﾃｲ ﾅｲﾖｳ | →<br>「選択」 | ｳﾝﾃﾝ ﾏﾃﾞ ﾉｺﾘ 1ﾆﾁ<br>15ｼﾞｶﾝ 32ﾌﾝ 20ﾋﾞｮｳ |
| タイマ停止設定<br>▽△ | ﾀｲﾏ ﾃｲｼ ｾｯﾃｲ<br>ｾﾝﾀｸｷｰ:ｾｯﾃｲ ﾅｲﾖｳ | →<br>「選択」 | ﾃｲｼ ﾏﾃﾞ ﾉｺﾘ 1ﾆﾁ<br>15ｼﾞｶﾝ 32ﾌﾝ 20ﾋﾞｮｳ |
| カレンダー運転モード<br>▽△ | ｶﾚﾝﾀﾞｰ ｳﾝﾃﾝ ﾓｰﾄﾞ<br>ｷﾝｼ | | |
| 週間運転設定<br>▽△ | ｼｭｳｶﾝ ｳﾝﾃﾝ ｾｯﾃｲ<br>ｾﾝﾀｸｷｰ:ｾｯﾃｲ ﾅｲﾖｳ | →<br>「選択」 | ｼｭｳｶﾝ ｳﾝﾃﾝ (MON)<br>(1) 08:30-17:15 |
| 特定運転設定<br>▽△ | ﾄｸﾃｲ ｳﾝﾃﾝ ｾｯﾃｲ<br>ｾﾝﾀｸｷｰ:ｾｯﾃｲ ﾅｲﾖｳ | →<br>「選択」 | ﾄｸﾃｲｳﾝﾃﾝ 1:ｶｲｼ<br>3/13 10:00 |
| 特定停止設定<br>▽△ | ﾄｸﾃｲ ﾃｲｼ ｾｯﾃｲ<br>ｾﾝﾀｸｷｰ:ｾｯﾃｲ ﾅｲﾖｳ | →<br>「選択」 | ﾄｸﾃｲ ﾃｲｼ 1<br>1/ 1- 1/ 5 |

入力電圧表示（本ページ最上段）へ

## 10.4　内部データ設定画面

この画面では、UPS 内部の時計や、詳細な運転方法などの設定を行います。

個別データ表示画面から、「モニタ」ボタンを１回押すことで、データ設定画面となります。

| 個別データ表示画面 | 「ﾓﾆﾀ」ﾎﾞﾀﾝ → | 内部データ設定画面 |
|---|---|---|
| M ﾆｭｳﾘｮｸ ﾃﾞﾝｱﾂ<br>194V | | S ｷｰﾛｯｸ : ｾｯﾃｲ<br>ｾﾝﾀｸｷｰ :ｾｯﾃｲﾓｰﾄﾞ |

（右画面'S'表示は内部データ設定モードの先頭を示します）

この右画面で、「▽」／「△」ボタンを押して、設定したいデータを表示させます。さらに、「選択」ボタンを押すことで、設定モードとなり、値を変更できるようになります。

この状態で、「▽」ボタンまたは「△」ボタンを押すことで、設定値を変更することができます。

| | ⇄ | |
|---|---|---|
| S ｷｰﾛｯｸ : ｾｯﾃｲ<br>ｾﾝﾀｸｷｰ :ｾｯﾃｲﾓｰﾄﾞ | | S ｷｰﾛｯｸ : ｶｲｼﾞｮ<br>ｾﾝﾀｸｷｰ :ｾｯﾃｲﾓｰﾄﾞ |

設定したい値が表示された状態で、「設定」ボタン（「シフト」と同時に）を押すことで、UPS 内部にデータが設定されます。

（注）日付／時刻設定は各値設定後、最後にもう一度「設定」ボタンを押すことによって UPS 内部にデータが設定されます。

本画面において、各種の設定を変更することができます。下表に設定可能なデータの種類を示します。

| データの種類 | LCD 表示例 | 説明 | 工場出荷初期設定 |
|---|---|---|---|
| キーロック | S ｷｰﾛｯｸ : ｾｯﾃｲ<br>S ｷｰﾛｯｸ : ｶｲｼﾞｮ | 'ｾｯﾃｲ'側時「運転」、「停止」ボタンを無効にします。 | ｶｲｼﾞｮ(キーロックなし)側 |
| 日付 | 1997/ 4/15(TUE) | 現在の日付を設定します。 | — |
| 時刻 | ﾄｹｲ 15:32:49 | 現在の時刻を設定します。 | — |
| ブザー音量 | ﾌﾞｻﾞｰｵﾝﾘｮｳ : 2 | 停電発生時などのブザー音量を設定します（0:ﾌﾞｻﾞｰ禁止、1:音量小、2:音量大） | ２(ﾌﾞｻﾞｰ音量大)側 |
| LCD 表示時間 | ﾋｮｳｼﾞ ｼﾞｶﾝ : 3 ﾌﾟﾝ<br>ﾋｮｳｼﾞ ｼﾞｶﾝ :30 ﾌﾟﾝ | 盤面の操作がない場合に LCD が消えるまでの時間を設定します。 | ３プン(分)側 |
| 自動運転 | ｼﾞﾄﾞｳ ｳﾝﾃﾝ : ｱﾘ<br>ｼﾞﾄﾞｳ ｳﾝﾃﾝ : ﾅｼ | 電源投入時に運転ボタン操作なしに UPS 運転とするかどうかを設定します。 | アリ（自動運転許可）側 |
| オートリトランスファー | ｵｰﾄﾘﾄﾗﾝｽﾌｧｰ : ｱﾘ<br>ｵｰﾄﾘﾄﾗﾝｽﾌｧｰ : ﾅｼ | 負荷機器への突入電流が大きい場合に、一時バイパス運転とするかどうかを設定します。 | アリ(ｵｰﾄﾘﾄﾗﾝｽﾌｧ許可)側 |
| リモート停止動作 | ﾘﾓｰﾄ ﾃｲｼ: ﾊﾞｲﾊﾟｽ<br>ﾘﾓｰﾄ ﾃｲｼ: ｼｬﾀﾞﾝ | ｲﾝﾊﾞｰﾀ運転中にﾘﾓｰﾄ端子を短絡した場合の UPS 動作を選択します。<br>ｼｬﾀﾞﾝ:出力遮断 | ﾊﾞｲﾊﾟｽ側 |
| 通信モード | ﾂｳｼﾝ ﾓｰﾄﾞ :RS232<br>ﾂｳｼﾝ ﾓｰﾄﾞ :SNMP | SNMP オプション挿入時に、SNMP と RS232C どちらを使用するかを選択します。 | RS232 側 |
| 通信速度 | ﾂｳｼﾝﾎﾞｰﾚｰﾄ:1200bps | RS232C のボーレートを設定します。<br>(1200/2400/4800/9600bps)<br>通信モードが RS232 の場合のみ | 1200bps 設定 |
| 起動時のバッテリテスト | ｷﾄﾞｳ ﾊﾞｯﾃﾘﾃｽﾄ:ｱﾘ<br>ｷﾄﾞｳ ﾊﾞｯﾃﾘﾃｽﾄ:ﾅｼ | UPS 起動時にバッテリテストを実施するかどうかを選択します。 | アリ(起動時テスト実施)側 |
| 自動バッテリテスト | ｼﾞﾄﾞｳﾊﾞｯﾃﾘﾃｽﾄ:ｱﾘ<br>ｼﾞﾄﾞｳﾊﾞｯﾃﾘﾃｽﾄ:ﾅｼ | UPS 運転中に一定時間間隔でバッテリテストを実施するかを設定します。 | ナシ側 |
| 自動バッテリテスト間隔 | ﾃｽﾄｶﾝｶｸ : 10 ﾆﾁ | バッテリテストを実施する間隔を設定します（1～99 日間/１日単位） | — |
| バッテリテストの実行 | ﾊﾞｯﾃﾘ ﾃｽﾄ | 手動でバッテリテストを実施します。 | — |
| 出力電圧調整 | ﾃﾞﾝｱﾂ ﾁｮｳｾｲ : 0 | UPS 出力電圧を調整します（-5～+5） | 0 設定 |
| タイマ予約解除 | ﾀｲﾏ ｾｯﾃｲ ｶｲｼﾞｮ | 通信でタイマ予約された場合の解除を行います（スケジュール設定は除く） | — |
| 設定データリセット | ｾｯﾃｲ ﾃﾞｰﾀ ﾘｾｯﾄ | 各種の設定値を初期値に戻します。 | — |

## 10.5 警告／故障発生時等の表示

### （1）警告発生時の LCD 表示内容

過負荷などの警告状態が生じた場合には、「警告」LED が点灯し、警告内容に応じた LCD 表示となります。下記内容にしたがって、処置を実施してください。なお、警告内容は基本表示画面でのみ表示されます。「警告」LED が点灯している場合は、必ず基本表示画面で警告内容を確認してください。

| LCD 表示内容 | 内容 | 処置 |
|---|---|---|
| ｶﾌｶ 132% | UPS の負荷が大き過ぎます。（110%以上）そのまま放置するとバイパス運転に切り替わるか、または出力遮断します。過負荷検出は出力皮相電流の実効値で検出しています。 | ＵＰＳの負荷を減らして下さい |
| ｶﾌｶ:ﾌｶｦﾍﾗｼﾃｸﾀﾞｻｲ | UPS の負荷が大き過ぎます。（110%以上）そのまま放置すると出力遮断となります。 | 同上 |
| ﾊﾞｯﾃﾘ ﾃｲｶ 87% | 運転中にバッテリ残量が残り少なくなった状態（約 90%以下）です。そのままにしますと、バッテリが空になり、出力停止します。 | 停電バックアップ中は速やかに負荷を停止させてください。全ての負荷を停止させた後に、「停止」ボタンを押し、UPS を停止させてください。 |
| ﾅｲﾌﾞ ｵﾝﾄﾞ 52℃ | UPS 内部の温度が高すぎます。（50℃以上で検出） | 周囲温度が異常に高くないか(40℃以上）確認して下さい。<br>高温の場合には空調を入れるなどの対策を施してください。<br>また背面ファンが回転も確認して下さい。ファンが回転していない場合は、販売店に修理を依頼して下さい。 |
| ﾊﾞｯﾃﾘ ｺｳｶﾝｼﾞｷﾃﾞｽ | バッテリが寿命に近づいています（平均周囲温度 25℃で約 4.5 年） | バッテリ交換を計画し、販売店に連絡してください。 |
| ﾊﾞｯﾃﾘｺｳｶﾝｼﾃｸﾀﾞｻｲ | バッテリが寿命になりました。（平均周囲温度 25℃で約 5 年） | 販売店に依頼し、早急にバッテリを交換してください。 |
| ｻｰﾋﾞｽﾏﾝｺｰﾙ<br>UPS ﾃﾝｹﾝｼﾞｷﾃﾞｽ | 装置期待寿命 7 年を超過しましたので UPS の点検を推奨します。 | 販売店に、UPS の定期点検を依頼してください。またＵＰＳの新品への交換(リプレース)もご相談下さい。 |

## （２）状態変化発生時の LCD 表示内容

警告以外（警告 LED 点灯なし）に通常状態と状況が変化した例として下記があります。

| LCD 表示内容 | 内容 |
|---|---|
| ｵｰﾄﾘﾄﾗﾝｽﾌｧﾓｰﾄﾞ | 出力の突入電流を検出し、バイパス給電している状態を示します。 |
| ｼｭｳﾊｽｳﾋﾄﾞｳｷﾁｭｳ | 入力周波数が装置の追従範囲（標準：±１Ｈｚ）を超えた場合に表示します。 |
| ﾎｺﾞｼﾞｭｳﾃﾞﾝﾁｭｳ | ﾊﾞｯﾃﾘ過電圧･過熱時に、充電電圧を通常よりも低く設定した保護充電を行っていることを示します。過熱時は警告ＬＥＤを点灯し、ﾅｲﾌﾞｵﾝﾄﾞ###℃（高温温度）を優先表示します。 |
| (例)<br>ｳﾝﾃﾝﾏﾃﾞ ｱﾄ 4 ﾌﾝ | 通信によるＵＰＳ運転開始タイマ予約を設定した後、実行まで５分以内となった場合の残り時間を示します。<br>（スケジュール予約時には本表示はありません） |
| (例)<br>ﾃｲｼ ﾏﾃﾞ ｱﾄ 10 ﾋﾞｮｳ | 通信によるＵＰＳ停止（出力遮断）タイマ予約を設定した後、実行まで 5 分以内となった場合の残り時間を示します。<br>（スケジュール予約時には本表示はありません） |
| ｷｰﾛｯｸﾁｭｳ：ｿｰｻｷﾝｼ | キーロック設定時、または通信による運転／停止の予約設定時、運転または停止ボタンを押した場合に表示します。<br>設定モードでキーロック解除後、操作を行ってください。 |

## （３）故障発生時の LCD 表示内容

UPS 内部で故障が発生した場合、「運転／故障」LED が赤色に点灯します。この時、入力電圧が正常であれば、UPS は即座にバイパス運転に切り換わり負荷給電を継続します。

また、入力電源に異常がある場合には出力停止となります。

この時、LCD が「シュツリョク　シャダンチュウ」と表示されているか、または「運転／故障」LED が緑色の点滅状態ならば出力遮断状態となります。

また発生した故障の内容についても LCD 上で確認できますので、次ページにしたがって、ご確認の上、対処してください。また、必要に応じて販売店へ修理をご依頼ください。

故障発生時には、基本表示画面が下記のようになります。

```
ｺｼｮｳ(ﾊﾞｲﾊﾟｽｳﾝﾃﾝﾁｭｳ)
  OUT-OV  DC-OV  ＞
```

上記例のように'＞'が表示された場合は、更に他の故障検出があります。

'▽(△)'キーにて内容確認してください。

ここで、英文字で示された記号は、それぞれ下表の内容を示します。表の指示にしたがって、処置をしてください。

| 表示 | 内容 | 処置方法 |
|---|---|---|
| DC-OC | 直流過電流 | UPS 内部で故障が考えられます。左記内容と故障発生時の運転状態をご確認の上、弊社代理店または営業窓口にご連絡ください。 |
| OUT-OV | 出力過電圧 | |
| OUT-UV | 出力不足電圧 | |
| DC-OV | 直流過電圧 | UPS 内部の故障、または配線ミス･入力電圧過大･モーター負荷等が接続されている可能性があります。電源･配線と負荷を確認後、弊社代理店または営業窓口にご連絡ください。 |
| OL | 過負荷耐量超過 | 100%以下となるまで、負荷機器を減らしてください。 |
| DC-UB | 直流電圧<br>アンバランス | UPS 内部の故障、または半波整流器負荷等が接続されている可能性があります。負荷を確認後、弊社代理店または営業窓口にご連絡ください。 |
| OH | 内部温度上昇<br><br>バイパス運転に移行後も、本故障が1 時間継続した場合、装置過熱保護のため出力遮断となります。 | 本故障でバイパス運転に移行後、1 時間経過しても温度が低下しない場合は、出力を遮断しますのでご注意ください。<br>1 時間以内に温度が低下すると、本故障は解除されますが、UPS 運転に自動復帰せずバイパス運転状態を継続し、LCD も故障表示を継続します。<br>下記方法に従い、故障解除の処置をお願いします。<br><br>＜本故障の解除方法＞<br>①最初に停止ボタンを 3 秒以上押して下さい。<br>②①で故障表示が解除されない時は高温状態が継続中です。<br>周囲温度が 40℃を超えるような高温の場合、空調を入れるなどの処置を施し、40℃以下となるようにして下さい。<br>また背面の冷却ファン停止や、埃等による吸排気孔の目詰まりが確認された場合には、負荷を停止させ、弊社代理店または営業窓口に修理を依頼してください。<br>（詳しくは " 12.1 トラブル発生と対応 " を参照下さい）<br>③①で故障表示が解除された時は、内部温度が低下し、本故障が解除されています。<br>運転ボタンを押せば UPS 運転モードに復帰します。 |

# 11. 動作確認テスト

使用前の点検と確認(P41)後、動作確認テストに先立ち 24 時間のバッテリのフル充電を行ってください。バッテリのフル充電については、9.5 項(P46)を参照してください。

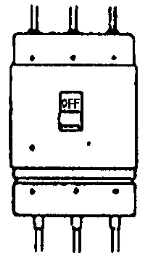
| ⚠ 危険 | ■煙が出ている、変なにおいがするなどの異常のときは、すぐに停止ボタンを押し負荷を停止させた後、入力ブレーカを「OFF」して UPS を電源系統から切り離すこと。<br>そのまま使用すると、火災の原因となります。操作後は、販売店に修理をご依頼ください。 |
|---|---|
| | ■入出力端子台のカバーをはずす前に、停止ボタンを押し、配電盤の UPS 電源用ブレーカを「OFF」にすること<br>これらの操作をせずに、入出力端子台のカバーをはずすと、感電の原因となります。 |
| | ■上に乗ったり、座ったり、寄りかからないこと<br>装置が転倒し、けがの原因となります。 |
| | ■配線コードを取り扱うときは、次の点を守ること<br>・引っ張ったり、無理に曲げたり、傷つけない<br>・物を載せない、加熱しない<br>守らないと、コードが破損して、火災・感電の原因となります。 |

| ⚠ 注意 | ■ぬれた手で操作したり、ぬれた布でふかないこと<br>感電の原因となります。 |
|---|---|
| | ■初めて運転するときや停電バックアップ運転後は、負荷機器を使用する前に 24 時間以上充電（入力ブレーカを「ON」）すること<br>充電しないと、バッテリバックアップ運転時間が短くなり、処理中のデータを破壊する原因となります。 |

## 11.1 バッテリバックアップ機能のテスト（負荷機器なし）

模擬的に停電状態をつくり、停電時に UPS バッテリバックアップ機能（バッテリから負荷機器に電源を供給する機能）が正常に動作するのを確認します。配電盤の UPS 電源用ブレーカと UPS 背面の入力ブレーカが共に「ON」で UPS 運転中の状態から、次頁(a)~(d)の手順でテストしてください。この場合、UPS に接続した各負荷機器（OA 機器）の起動スイッチは全て「OFF」にし、負荷機器なしの状態で行ないます。

(a) 配電盤の UPS 電源用ブレーカを「OFF」にし、停電状態にします。

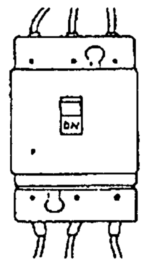


(b)バッテリ運転に無瞬断で切換り、LCD 表示も右のようにバッテリ電圧を表示します。「電源」LED は消灯します。

ﾊﾞｯﾃﾘ ｳﾝﾃﾝﾁｭｳ
ﾊﾞｯﾃﾘﾃﾞﾝｱﾂ 93%

(c)ブレーカを OFF にしてから約 10 秒後にブザー（ピー音）が 5 秒鳴るのを確認します。

(d) 直ちに、配電盤の UPS 電源用ブレーカを「ON」にして正常状態にもどるのを確認し本テストを終了します。



## 11.2 負荷機器の適正容量確認テスト

| ⚠ 注意 | ■次の負荷機器を UPS に接続しない、また注意のこと<br>故障の原因になったり、正常に動作できないおそれがあります。 |
|---|---|
| | ・モーター類<br>・コンタクタ、トランスの一部（励磁電流大等）<br>・半波整流形の負荷<br>・入力電流が不安定なランプ類（安定器付きのランプ等）<br>・他、断続的に過大な突入電流（電流制限値を超える）を必要とする負荷（プリンタ等） |

UPS の容量に対し、接続した OA 機器の負荷容量が上回っていないかどうかを確認します。接続工事が完了した全負荷機器の起動スイッチを「OFF」にします。配電盤の UPS 電源用ブレーカと UPS 背面の入力ブレーカが共に「ON」の状態から、UPS を運転し、次の手順でテストしてください。

お願い：負荷機器のアンペア容量（A）の和が UPS の入力ブレーカの定格電流を超えないよう、負荷機器の接続台数を調整してください。

(a) UPS に接続した各負荷機器（OA 機器）の起動スイッチを順に「ON」にします。

(b) LCD の負荷電流の数値が負荷量に応じて大きくなります。

```
UPS ｳﾝﾃﾝﾁｭｳ
ﾌｶﾘﾂ  65%
```

(c) 右のような表示が出た場合は、「過負荷」状態です。各負荷機器の起動が完了しても警告が出たままであれば、負荷機器の数を減らしてください。
このまま使用すると 30～60 秒程度で過負荷検出停止します。

```
UPS ｳﾝﾃﾝﾁｭｳ
ｶﾌｶ  115%
```

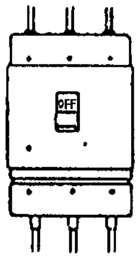
(d) 負荷投入時の突入電流によりオートリトランスファ動作となりますと「ｵｰﾄﾘﾄﾗﾝｽﾌｧ」と表示されます。
この場合も負荷機器の容量オーバーが考えられますので負荷電流を確認願います。負荷電流が UPS 定格電流を超えている場合、負荷を減らしてください。（15.1 標準仕様参照）。

お願い：電流測定時には、必ず真の実効値指示形電流計をご使用ください。整流器形計器等真の実効値形ではない測定器を使用しますと、負荷が非線形負荷の場合に大きな測定誤差が発生しますので、正確な測定ができません。

## 11.3 バッテリバックアップ機能のテスト（負荷機器あり）

負荷機器（起動スイッチ「OFF」）が UPS に接続された状態から、配電盤の UPS 用電源ブレーカと UPS の入力ブレーカを「ON」にし、その後、UPS の運転ボタンおよび負荷機器の起動スイッチも「ON」にしておきます。以下の順序で UPS のバッテリバックアップ機能をテストしてください。

(a) 配電盤の UPS 用ブレーカを「OFF」にし、停電状態にします。

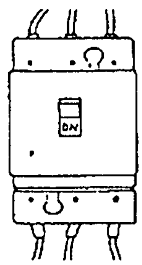



(b) ブレーカを「OFF」にして約 10 秒後に、ブザー（ピーという音）が 5 秒鳴るのを確認します。

(c) LCD 表示がバッテリ電圧表示に切り換わり、バッテリ電圧に応じた数値が表示されます。
バッテリ容量が残り少なくなりますと、「ﾊﾞｯﾃﾘﾃｲｶ」と表示されます（警告）。さらにバッテリ電圧が低下（約80%）しますと出力が停止し、負荷機器への給電が行われなくなります。

| ﾊﾞｯﾃﾘ ｳﾝﾃﾝﾁｭｳ |
|---|
| ﾊﾞｯﾃﾘﾃﾞﾝｱﾂ　94% |

(d) 直ちに、配電盤の UPS 用ブレーカを「ON」にして、正常状態にもどるのを確認し、本テストを終了します。
なお、バッテリの保持時間は初期満充電条件（25℃）にて 10 分です。



# 12. トラブルシューティング

<table>
<tr><td rowspan="7">⚠危険</td><td>■万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常のときは、すぐに停止ボタンを押し負荷を停止させた後、入力ブレーカを「OFF」して UPS を電源系統から切り離すこと。<br>そのまま使用すると、火災の原因となります。操作後は、販売店に修理をご依頼ください。</td></tr>
<tr><td>■改造・分解・修理・部品交換・廃棄しないこと<br>火災・感電の原因となります。<br>修理・部品交換は販売店にご依頼ください。<br>廃棄は専門の廃棄物処理業者にご依頼ください。</td></tr>
<tr><td>■装置と入出力端子台のカバーをはずさないこと<br>内部は電圧の高い部分があり、感電の原因となります。</td></tr>
<tr><td>■吸気口・排気口などから、金属棒を差し込んだり、内部に入れないこと<br>火災・感電及び冷却ファンによる巻きこみの原因となります。</td></tr>
<tr><td>■上に乗ったり、座ったり、寄りかからないこと<br>装置が転倒し、けがの原因となります。</td></tr>
<tr><td>■電源配線工事は電気工事士の資格者が行うこと<br>資格を持っていないかたが行うと、火災・感電の原因となります。<br>配線工事は販売店にご依頼されることをおすすめします。</td></tr>
<tr><td>■入出力端子台のカバーをはずす前に、停止ボタンを押し、配電盤の UPS 電源用ブレーカを「OFF」にすること<br>これらの操作をせずに、入出力端子台のカバーをはずすと、感電の原因となります。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="4">⚠ 注意</td><td>■ぬれた手で操作したり、ぬれた布でふかないこと<br>感電の原因となります。</td></tr>
<tr><td>■3 ヵ月以上停止させるときは、3 ヵ月に一度は 24 時間以上充電（入力ブレーカを「ON」）すること<br>充電しないとバッテリが劣化し、バッテリバックアップ運転時間が短くなり、処理中のデータを破壊する原因となります。</td></tr>
<tr><td>■警告ブザーが鳴り、UPS 運転／故障ランプが赤色に点滅したときは、61 ページの「12.1 トラブル発生と対応」にしたがうこと<br>したがわずにそのまま運転を続けると、処理中のデータを破壊する原因となります。</td></tr>
<tr><td>■入力ブレーカを「OFF」する前に、負荷機器を停止させること（停止方法は負荷機器の取扱説明書参照）<br>負荷機器を停止させず入力ブレーカを「OFF」すると、処理中のデータを破壊する原因となります。</td></tr>
</table>

## 12.1　トラブル発生と対応

**ブザーは故障発生時、バッテリ電圧低下時、停電時、過負荷時、バッテリ交換時期時、装置交換時期時に鳴ります。**

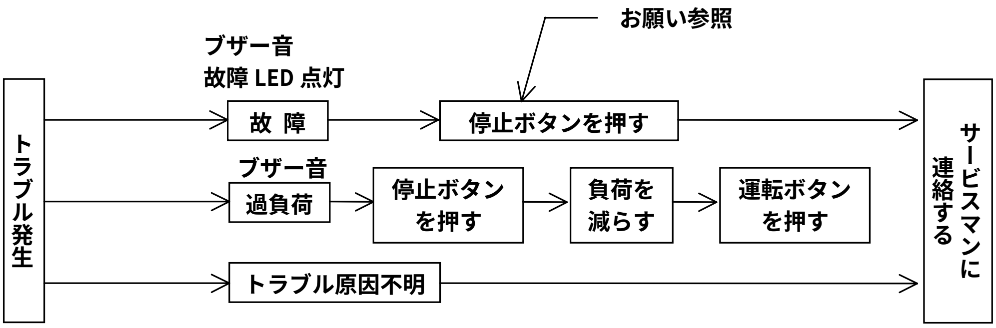



**図 12.1　トラブル発生と対応**

**お願い：弊社サービスマンの指示に従って、必要な場合には入力ブレーカを「OFF」にしてください。ただし入力ブレーカを「OFF」にしますと、コンピュータへの給電が遮断されますので、<u>まず負荷機器を停止してください。</u>**

**故障のリセット方法**

**停止ボタンをピーと音がするまで押し、さらに入力ブレーカを「OFF」側にする。**

## 12.2　サービスマンに連絡する前に

**トラブル（故障、異常現象）が発生した場合、その状態を正確に伝えることが適切・迅速な修理サービスを受けるために不可欠です。以下の点をあらかじめ確認してから、サービスマンに連絡してください。**

**(a) 表示画面の故障表示は何を表示しているか？**

**(b) どのような状況でトラブルが発生したか？いま、どういう状況か？**

**(c) UPS 形式と製造番号.（定格銘板に記載）は？**

**(d) 販売店名と納入時期（保証書に記載）は？**

## 12.3 トラブル時の LED と画面表示

### (1) 警告 LED（黄）が点滅している

（ａ）画面表示：‘ カフカ ’

入力ブレーカを「ＯＮ」、または運転ボタンを押したとき、警告ＬＥＤが点滅し表示画面が‘ カフカ ’を表示している場合は、UPS の定格容量を超えた負荷が接続されています（「過負荷」）。そのままの状態にしておくと、UPS の運転がバイパスに切り換わります。

この場合、「11.2 負荷機器の適正容量確認テスト」の手順により、適正な負荷かどうかを確認してください。

過負荷の場合、負荷機器を減らすか、容量の大きい UPS と交換する必要があります。負荷機器を減らした後、運転ボタン押して運転を再開し、警告 LED が再び点滅しなければ、負荷が UPS の定格容量内にあり正常運転に戻ります。

（ｂ）画面表示：‘ バッテリ　テイカ “

バッテリが充電不足になっています。この状態で停電が発生した場合バックアップできない可能性があります。８時間以上運転させ、バッテリを充電してください。

（ｃ）画面表示：‘ バッテリコウカンジキデス ’

常温（２５℃）で、寿命まで残り６カ月の時表示します

（本表示以降、<u>内部の温度が高い場合は実際の寿命警告までの期間が短く</u>なります）。

（ｄ）画面表示：‘ ナイブオンド　＃＃＃℃ ’

内部温度表示（LCD）が５０℃以上になると、高温警告の意味で表示します。

周囲温度が高くなっていないか（４０℃以上）、ファン停止または回転が鈍っていないか確認してください。上記に問題がない場合は、バッテリ異常（過熱）が考えられますので、弊社販売店にご連絡ください。

### (2) 警告ＬＥＤ（黄）が点灯している

（ａ）画面表示:：‘ バッテリコウカンシテクダサイ ’

バッテリが寿命に達しています。正常なバックアップが期待できない可能性がありますので、この状態で運転しますと、停電時にバックアップ時間が著しく短くなり、負荷機器に影響を与えたる場合があります。また、この状態で通電を継続すると、バッテリが損傷し、発煙・発火するおそれがありますので、すみやかに弊社販売店に連絡し、バッテリの交換依頼をしてください。

（ｂ）画面表示：‘ サービスマンコール／UPS テンケンジキデス ’

UPS が期待寿命に達して装置内部の用品が全体的に消耗・劣化している可能性があることを示しています。

したがいましてこの状態で通電していますと、負荷に影響を与えたり、場合によっては発煙・発火のおそれがありますので、すみやかに弊社販売店に連絡し、UPS の点検の実施あるいは、リプレースをご検討ください。

### (3) UPS 入力電源が停電でないのにバッテリバックアップモードとなる

UPS が入力電源異常を検出またはバッテリテストを実施しますと、バックアップモードとなり、自動的にバッテリ運転に切り換わります。

電源異常時は電気設備管理者に依頼し、UPS 入力側電源電圧の変動範囲をご確認ください
許容変動範囲(200V または 210V の+10%/-15%)から外れている場合には､電源電圧を調整のうえ許容変動範囲内となるようにしてください。

### (4) 故障 LED（赤）が点灯している

過負荷を除き運転／故障 LED が赤に点灯した時は表示画面の故障内容を記録し、サービスマンに修理を依頼してください。

故障内容と処置は「10．5(3)故障発生時の LCD 表示内容」を参照ください。

お願い：故障時に入力ブレーカを「OFF」にすると、故障モードがリセットされますが、負荷への給電が断たれるため、実施前にまず負荷機器を停止させてください。再び入力ブレーカを「ON」にすると、故障が拡大する可能性がありますので入力ブレーカは「OFF」のままサービスマンを呼んでください。

## 12.4 外部インタフェースからの故障信号

### (1) 外部接点インタフェースからの場合

UPS に故障が発生すると、外部接点信号コネクタの 1-5 ピンが「閉」となり、故障信号を出力します（P35 表 7.2 参照）。

外部接点インタフェースとケーブルを介して接続しているコンピュータ側で故障を検知した場合、LCD 上に表示される故障内容を、必ず確認し記録してください。

### (2) RS-232C インタフェースからの場合

RS-232C インタフェースとケーブルを介し UPS と接続しているコンピュータ上のモニタリングソフトで、UPS の故障要因データを読み出すことができます。（＊）

モニタリングソフトを使わない場合、サービスマンに連絡する前に、LCD 上に表示される故障内容を、必ず確認し記録してください。

＊ ：UNIX 系及び Windows 系に対する各種モニタリングソフトを用意しております。
詳しくは販売店にお問合せください。

# 13. 保守点検とアフターサービス

| ⚠ 危険 | ■改造・分解・修理・部品交換・廃棄しないこと<br>火災・感電の原因となります。<br>修理・部品交換は販売店にご依頼ください。<br>廃棄は専門の廃棄物処理業者にご依頼ください。<br>■万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常のときは、すぐに停止ボタンを押し負荷を停止させた後、入力ブレーカを「OFF」して UPS を電源系統から切り離すこと。<br>そのまま使用すると、火災の原因となります。操作後は、販売店に修理をご依頼ください。 |
|---|---|

| ⚠ 注意 | ■バッテリは交換時期前に販売店に交換を依頼すること<br>バッテリは時間の経過とともに劣化するので、交換が遅れるとバッテリバックアップ運転時間が短くなり、処理中のデータを破壊する原因となります。 |
|---|---|

〈バッテリ交換時期の目安〉

| 周囲温度 | 交換時期(目安) |
|---|---|
| 25℃ | 5年 |
| 30℃ | 3年6カ月 |
| 40℃ | 1年9カ月 |

次の日常点検、定期点検、及び部品交換を適切に行ってください。

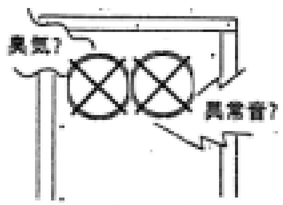
## 13.1 日常点検

| ⚠ 注意 | ■日常点検をすること<br>日常点検をしないと、異常・故障を発見できずに、処理中のデータを破壊する原因となります。 |
|---|---|

日常点検は目視確認によって毎日行ってください。確認項目を表 13.1 に示します。

点検に当たっては安全上の注意事項を改めて確認して実施してください。

表１３．１　日常点検項目

| No. | 点検対象 | 点 検 要 領 | | | 判定基準 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 点検項目 | 周期 | 点検方法 | |
| (1) | 周囲環境 | ほこり，ガス | 毎日 | 目視、臭覚 | 周囲に異臭、ガスの発生がないこと。<br>ほこりの堆積がないこと。<br>雰囲気の悪いところは改善下さい。 |
| | | 水，その他液体の滴下 | 〃 | 目視 | 周囲に水分のないこと。<br>水分の痕跡などが認められる場合、<br>滴下元を処置下さい。 |
| | | 温度，湿度 | 〃 | 温度計<br>湿度計 | 0～40℃、30～90％ （結露なし）<br>通常は空調設備により 25℃以下のこと。 |
| (2) | 構成機器<br>および部品 | 振動，騒音 | 〃 | 箱外面の<br>蝕感、聴覚 | 冷却ファンから異音が発生していないこと。<br><br>発熱、異臭などの異常があるときは、<br>購入した販売店までご連絡ください。 |
| | | 異常発熱，異臭 | 適宜 | 箱外面の<br>感触、臭覚 | |
| (3) | 運転状態 | LCD 表示 | 毎日 | 目視 | 文字のかすれ，および異常表示のないこと。 |
| | | 出力電圧、出力電流、<br>入力電圧、出力周波数 | 〃 | LCD 表示 | 規定範囲内にあること。 |
| (4) | 各種 LED 表示 | 状態 LED 表示 | 〃 | 目視 | 正しい表示をしていること。<br>故障 LED が点灯しているときは LCD により故障内容を確認し処置下さい。<br>必要により購入した販売店まで<br>ご連絡ください。 |

## 13.2　定期点検サービス

UPS を安心してご使用できるよう、弊社では年 1 回の定期点検サービス（有償）をお薦めしています。ご用命の際は、購入した販売店または弊社営業窓口までお申しつけください。

## 13.3　部品交換サービス

本 UPS のバッテリは定期的な交換（周囲温度 25℃の場合で約 5 年毎）が必要です。バッテリを期限内に交換することをお薦めします（有償）。ご用命の際は購入した販売店または弊社営業窓口までお申しつけください。

| | |
|---|---|
| ⚠ 危険 | ■自分で部品交換しないこと<br>（1）火災・感電の原因となります。部品交換は販売店にご依頼ください。<br>（2）弊社指定部品と交換されない場合、性能を復旧できない恐れがあります。必ず購入した販売店または営業窓口まで部品交換サービスをご用命ください。 |
| ⚠ 注意 | ■バッテリは交換時期前に販売店に交換を依頼すること<br>（1）バッテリ交換を怠るとバッテリケース割れによる漏液が発生し異臭/発煙/火災の原因となります。<br>（2）バッテリは時間の経過とともに劣化するので、交換が遅れるとバックアップ運転時間が短くなり、データ破壊の原因となります。（バッテリ交換時期は下記参照） |

　バッテリの寿命は、停電の頻度、周囲温度により異なるため、右の年数を目安に交換することをお薦めします。バッテリの交換時期は UPS の製造年月（定格銘板に記入）より起算します。

(バッテリ交換時期の目安)

| 周囲温度 | 交換時期(目安) |
|---|---|
| 25℃ | 5年 |
| 30℃ | 3年6カ月 |
| 40℃ | 1年9カ月 |

　なお、本装置では常温（25℃）で、バッテリ交換時期６ケ月前に警告 LED 及び LCD にてバッテリ寿命が近いことを知らせます（「12.3 トラブル時の LED と画面表示」参照）。

### ⚠ 注意

■バッテリの交換年数はご使用の環境条件により異なります。

■バッテリの交換予定日を記載すること
　ＵＰＳ天井板に貼り付けられているラベルにバッテリ取替予定日記載欄がありますので，
　ＵＰＳ設置時バッテリ取替予定日を記載してください。

■定期的なバッテリ交換を計画すること
　バッテリの寿命末期には、停電保持時間を維持出来なくなったり、
　バッテリの劣化による発煙･発火する恐れがあります。
　従いまして、上記の｢バッテリ交換の目安｣の表に示した交換間隔で早めにバッテリ交換することをお薦め致します。

強　制

■バッテリの寿命は周囲温度の影響を大きく受けます。
　周囲温度が高い場合，寿命が短くなりますので早めに交換下さい。
　また、充放電が頻繁に行われると更に寿命が短くなります。

■冷却ファンは周囲温度によっては寿命が短くなることがあります。
　許容周囲温度の上限(40℃)を超えると、装置寿命7年より前にファンは寿命となります。
　使用推奨温度(15℃～25℃)での運用を推奨します。

## 13.4　廃棄

UPS 本体、あるいは部品はむやみに廃棄せず、専門の廃棄物処理業者にご依頼ください。
詳しくは販売店または営業窓口にお問合せください。

⚠ 注意

強　制

■製品を廃棄する場合は，特別産業廃棄物であるため，一般ごみと同様の廃却はできません。
専門の廃棄物処理業者(*)に依頼すること。

■バッテリも，特別産業廃棄物であるため，一般ごみと同様の廃却はできません。
廃却については，お買い上げの販売店にご連絡ください。

産業廃棄物の収集・運搬及び処分は認可を受けていないものが行うと、法律により罰せられます。（「廃棄物の処理ならびに清掃に関する法律」）

(*)専門の廃棄物処理業者とは、「産業廃棄物収集運搬業者」、「産業廃棄物処分業者」をいう。

## 13.5　バッテリ寿命と製品寿命アラーム

（1）　バッテリ寿命アラーム

バッテリは寿命(５年)時期になると、下記アラームがでます。
本警告は、アラームのみでありＵＰＳ運転は継続し、接点出力信号およびＲＳ２３２Ｃ通信出力はありません。

ａ）バッテリ寿命前６ヶ月前（常温２５℃）
ＬＣＤ画面表示　「バッテリコウカンジキデス」
本表示以降、内部の温度が高い場合は、実際の寿命警告までの期間が短くなります。

ｂ）バッテリ寿命時
ＬＣＤ画面表示　「バッテリコウカンシテクダサイ」
バッテリが寿命に達しています。正常なバックアップが期待できない可能性がありますので、この状態で運転しますと、停電時にバックアップ時間が著しく短くなり、負荷機器に影響を与える場合があります。
また、この状態で通電を継続すると、バッテリが過熱し、発煙・発火するおそれがありますので、すみやかに弊社販売店に連絡し、バッテリ交換依頼をしてください。

（2）　製品寿命アラーム

ＬＣＤ表示　「サービスマンコール／ＵＰＳテンケンジキデス」
ＵＰＳが期待寿命７年を経過して装置内部の用品が全体的に消耗･劣化している可能性があることを示しています。
この状態で通電していますと、負荷に影響を与えたり、場合によっては発煙・発火のおそれがありますので、すみやかに弊社販売店に連絡し、UPS の点検の実施あるいは、リプレースをご検討ください。

# 14． 保証

## 14.1 保証書の入手と保管

お客様サービス登録 FAX カードに必要事項を記入の上、Fax にて弊社窓口まで送信してください。お客様サービス登録手続後、「保証書」をお客様に送付いたします。お客様サービス登録 FAX カードを送信頂けない場合は、保証およびサービスが受けられない場合がありますのでご注意願います。

お客様サービス登録 FAX カードを送信頂いているのにもかかわらず、万一お客様に「保証書」が到着しない場合、その旨を弊社窓口に告げ、必ず入手してください。

「保証書」は記載内容を確認の上、取扱説明書とともに大切に保管してください。

| 保証期間は購入した日から 1 年間です。 |
|---|

## 14.2 保証の制限条件

次の様な場合には、UPS 保証期間内であっても有償修理になります。

（1）ご使用の誤りによる場合
（2）不当な修理/改造/接続による場合
（3）購入後に取扱場所を移動させたことが原因である場合
（4）購入後に落下させた場合
（5）下記の天変地異が発生した場合
　① 火災
　② 塩害及びガス害
　③ 地震
　④ 風水害
　⑤ 落雷による電圧異常
　⑥ その他の天変地異
（6）バッテリ過放電によるバッテリ故障が発生した場合

# 15. E3 プラスタイプ UPS の仕様

## 15.1 標準仕様

| タイプ | | E3 プラスタイプ | |
|---|---|---|---|
| 形式 | | ECE3P-U20050N | ECE3P-U20075N |
| 定格出力容量 | | 5kVA/4,250W | 7.5kVA/6,375W |
| 運転方式 | | 常時インバータ運転、停電時無瞬断切換 | |
| 交流入力 | 相数 | 単相 2 線、アース付き端子台 | |
| | 電圧(注 1) | 200V +10%/-15%(-40%) | |
| | 周波数 | 50Hz 又は 60Hz ±5% | |
| | 入力容量 | 5kVA | 7.5kVA |
| 交流出力 | 相数 | 単相 2 線 | |
| | 電圧精度(注 1) | 100V±3% | |
| | 電圧波形歪率 | 3%（線形負荷にて定格運転時） | |
| | 過渡電圧変動 | ±5%以内（負荷急変 0⇔100%時）、±8%以内（停電⇔復電時） | |
| | 定格電流(注 1) | 50A | 75A |
| | ｸﾚｽﾄﾌｧｸﾀ（注 3） | 2.5 | |
| | 周波数精度 | 50Hz 又は 60Hz±0.1%（自走時、定格周波数は自動切換） | |
| | 過負荷耐量(注 4) | インバータ運転：定格電流（実効値）の 125%－30 秒、150%－10 秒<br>バイパス運転：定格電流（実効値）の 125%－10 分、150%－1 分 | |
| | 負荷力率 | 0.7/0.85 遅れ（0.6～1.0 遅れ） | |
| バッテリ保持時間(注 5) | | 4,250W－7 分（負荷力率 0.85）<br>3,500W－10 分（負荷力率 0.7） | 6,375W－7 分（負荷力率 0.85）<br>5,250W－10 分（負荷力率 0.7） |
| 充電時間 | | 24 時間満充電 | |
| 冷却方式 | | 風冷 | |
| 使用温度 | | ＋0℃～＋40℃（使用推奨温度＋15℃～＋25℃） | |
| 使用湿度 | | 30%～90%（結露しないこと） | |
| 騒音（注 5）<br>(正面 1m，A ｽｹｰﾙ) | | 52dB 以下 | 52dB 以下 |
| 外形寸法（mm） | | 250W×770D×700H | |
| 概略質量 | | 約 145 kg | 約 175 kg |
| 概略発生熱量 | | 612W | 889W |
| 必要換気量 | | 3.8m³／h | 5.1m³／h |

（注 1）負荷 100%では入力電圧 85%でバックアップ開始、負荷率 60%以下では入力電圧 60%でバックアップ開始。

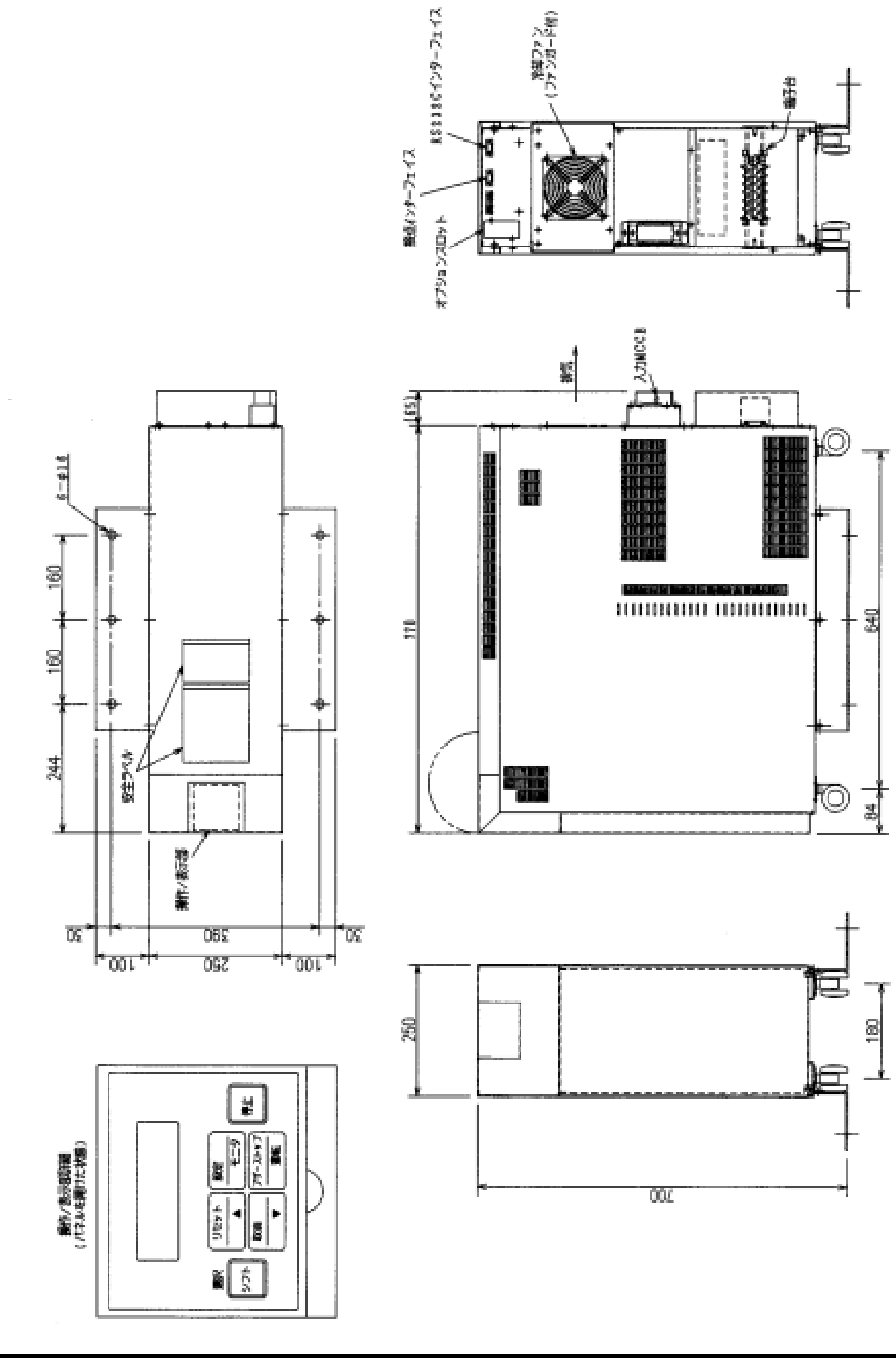
（注 2）定格電流の実効値に対する最大瞬時値の比で、連続許容値を示す。

（注 3）過負荷耐量を超える負荷に対しては、UPS にて装置保護のためにバイパスを含めて電源が遮断される場合あり。

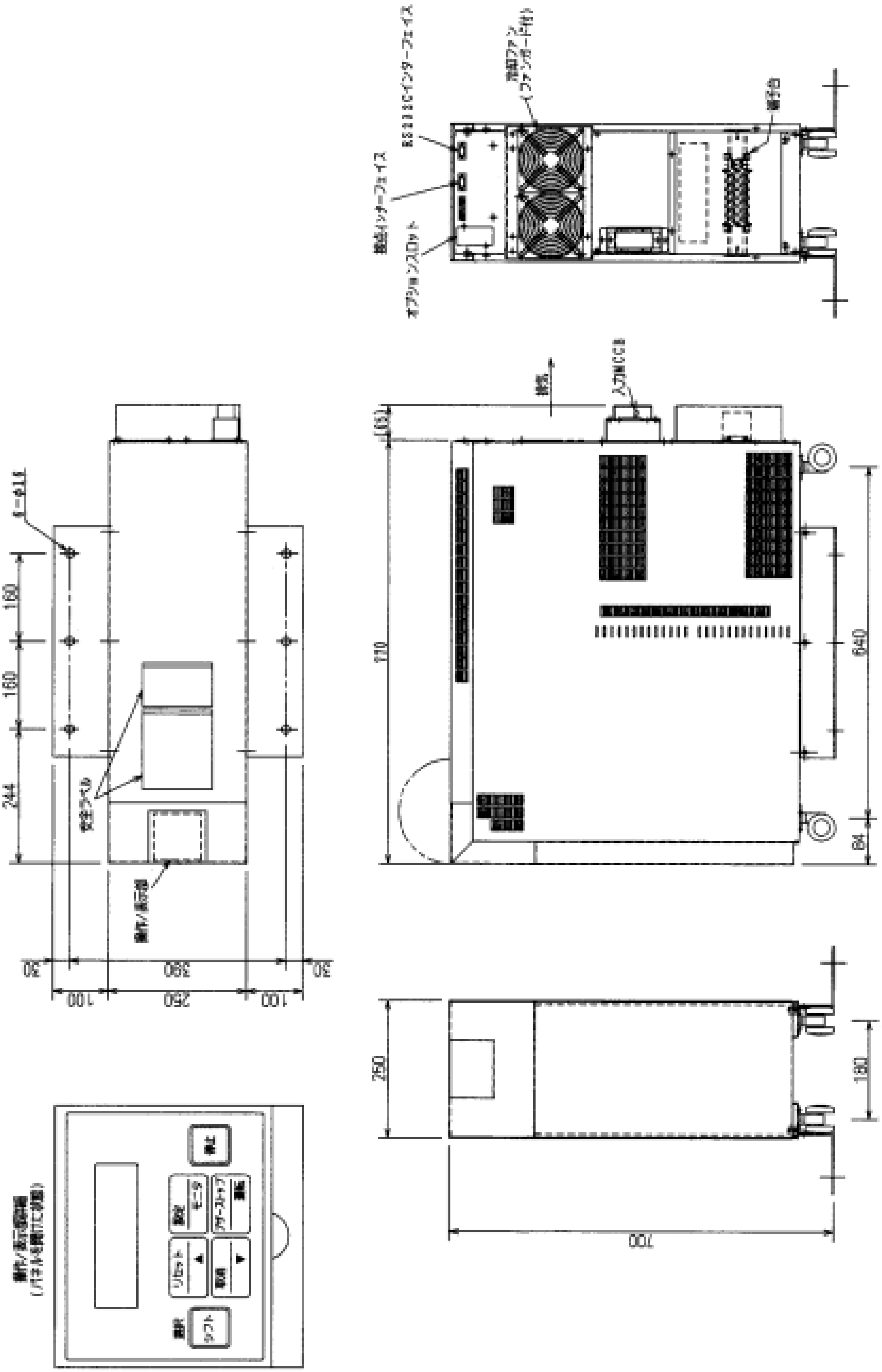
（注 4）初期特性、定格負荷、周囲温度 25℃でバッテリが充電完了の場合。

（注 5）騒音は無響音室にて UPS 装置の正面から 1m 離れた位置で測定した値（JEM1464）です。
設置場所の環境（反射音などの影響）により、騒音値カタログ仕様値を超過する場合があります。

15.2　5kVA の外形詳細図



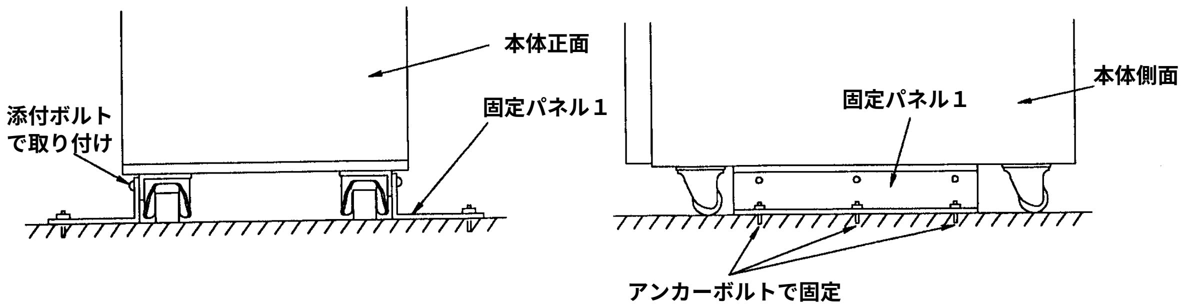
## 15.3 7.5kVA の外形詳細図



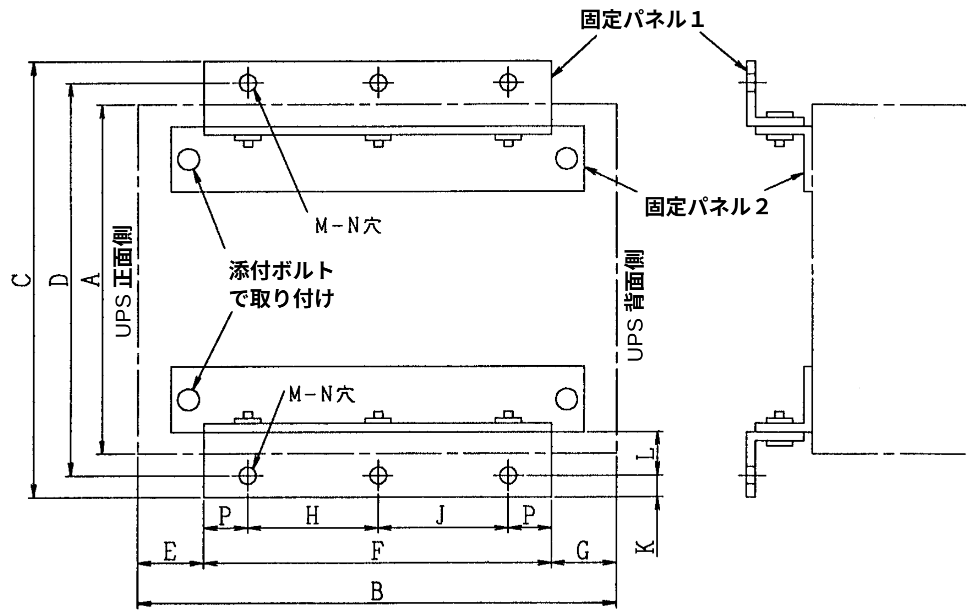
# 付　録

## 付 1. UPS 固定金具（標準添付）

UPS 本体を床面に固定するための金具が付属しています。ただし，アンカーボルトは付属していません。




固定するためには床面に以下のような加工が必要です。




床面加工図

| 容　量 | A | B | C | D | E | F | G | H | J | K | L | M | N | P | 推奨アンカーボルト径 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5/7.5kVA | 250 | 770 | 453 | 393 | 195 | 420 | 155 | 160 | 160 | 30 | 80 | 3 | φ16 | 50 | M12 |

## 付 2. Ｅ３プラスタイプ UPS 形式説明

銘板上の形式の意味は次のとおりです。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | … |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| E | C | E | 3 | P | - | U | 2 | A | 0 | 5 | 0 | N | B | 2 | … |

**シリーズ名称**（1～5）
ＥＣＥ３Ｐ…
　Ｅ３プラスタイプ

**補助分類コード**（6）
＊……通常は＊

**電源方式**（7）
Ｕ…ＵＰＳ型

**入力電圧**（8）
２…２００Ｖ単相２線
Ｑ…２１０Ｖ単相２線

**出力電圧**（9）
０…１００Ｖ単相２線
３…２００Ｖ単相２線
４…１０５Ｖ単相２線
５…２１０Ｖ単相２線
Ａ…２００／１００Ｖ
　単相３線
Ｂ…２１０／１０５Ｖ
　単相３線

**容量**（10～12）
０５０…５ｋＶＡ
０７５…７．５ｋＶＡ
１００…１０ｋＶＡ
１５０…１５ｋＶＡ
２００…２０ｋＶＡ

**大分類コード**（13）
Ｎ…ニューモデル

**オプションコード**（14～）
Ｌ……バッテリ１０年寿命
Ｂ２…バッテリ２０分延長
Ｂ３…バッテリ３０分延長
ＭＢ…ﾒﾝﾃﾅﾝｽﾊﾞｲﾊﾟｽ
ＭＢＫ…ﾒﾝﾃﾅﾝｽﾊﾞｲﾊﾟｽ簡易(ｶﾑｽｲｯﾁ)

注：本記号は本体変更・改造に関する分類コードであり、別売品付加による変更には関係しない。
また、複数のｵﾌﾟｼｮﾝがある場合にはコードを羅列することで表示します。

**製造元**

TMEIC 東芝三菱電機産業システム株式会社

〒108-0073　東京都港区三田 3-13-16　三田ＭＴビル
パワーエレクトロニクスシステム事業部



●本取扱説明書は２００８年 12 月の発行です。

株式会社 東芝

090120